

第30回

鳥取県図書館大会

いま改めて考える『読書』の未来と可能性



大山 ©鳥取県

期	日	： 令和7年8月18日（月）
会	場	： 米子コンベンションセンター
主	催	： 鳥取県図書館協会
共	催	： 鳥取県書店商業組合、NPO 法人本の学校、鳥取県学校図書館協議会 鳥取県公共図書館協議会、鳥取県立図書館
後	援	： 公益社団法人日本図書館協会

目次

目次	1
大会案内	2
会場案内	6
基調講演	9
特別報告／事例発表	10
分科会 1	29
分科会 2	41
分科会 3	54
分科会 4	61
分科会 5	62

第30回 鳥取県図書館大会

1 大会テーマ 「いま改めて考える『読書』の未来と可能性」

急速に変化するデジタル社会において、これから「読書」にはどのような役割が期待されるのか。生活様式の変化や「GIGAスクール構想」の進展、「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」の成立等の読書を取り巻く環境の変化も踏まえ、これからの未来へつながる新しい「読書論」について考える。

2 主 催 鳥取県図書館協会

3 共 催 鳥取県書店商業組合、NPO法人本の学校、
鳥取県学校図書館協議会、鳥取県公共図書館協議会、鳥取県立図書館

4 後 援 公益社団法人日本図書館協会

5 期 日 令和7年8月18日（月）

6 会 場 米子コンベンションセンター（米子市末広町294、電話：0859-35-8111）
小ホール、第1会議室・2会議室・3会議室・4会議室

7 内 容

（1）開会行事

挨拶：鳥取県図書館協会 会長 齋藤 明彦
鳥取県教育委員会 教育長 足羽 英樹 氏
米子市教育委員会 教育長 浦林 実 氏

（2）基調講演

演題：「若者の読書離れは本当なのか？ データから見る実態と、実際によく読んでいる本」

講師：飯田 一史 氏（出版ジャーナリスト・ライター）

<講師プロフィール>

1982年青森県むつ市生まれ。中央大学法学部法律学科卒。グロービス経営大学院経営研究科経営専攻修了（MBA）。出版社にてカルチャー誌や小説の編集に携わったのち、独立。ウェブカルチャー、出版産業、子どもの本、マンガ等について取材、調査、執筆している。JPIC読書アドバイザー養成講座講師。電子出版制作・流通協議会「電流協アワード」選考委員。インプレス総研『電子書籍ビジネス調査報告書』共著者。

著書に『町の本屋はいかにしてつぶれてきたか』『若者の読書離れ』というウソ』『マンガ雑誌は死んだ。で、どうなるの?』『ウェブ小説30年史』ほか。

（3）特別報告・事例発表「読書と人とをつなぎ・つながる取組最前線

～子どもの読書環境を支える現場はいま～

令和7年3月に策定された「鳥取県子どもの読書活動推進ビジョン（第5次計画）」についての報告に続き、子どもたちと読書の架け橋となるべく活動する、こども園、義務教育学校、高等学校の皆様に、子どもの成長の流れに沿って、日々の取組について事例発表いただく。

報告者：鳥取県教育委員会事務局 社会教育課長 福本 哲也 氏

事例発表者：北栄町立北条こども園 園長 竹本 幸子 氏
 日野町立日野学園 校長 砂流 誠吾 氏
 学校法人翔英学園 米子北高等学校 学校司書 高山 紫織 氏

(4) 分科会

	テーマ	内容	講師・発表者・対談者
1	発進！移動図書館車	少子高齢化や過疎化により図書館への来館が難しくなる方が増えるなかで、積極的に本を届ける移動図書館車の活動から、これからの図書館サービスのあり方について学ぶ。	＜発表者＞ ・鳥取市立中央図書館 館長 中島 泉 氏 ・町立みささ図書館 副館長 小椋 智子 氏 ・米子市立図書館 課長補佐 熊沢 菜穂子 氏 ・大山町立図書館 館長補佐 永井 美里 氏
2	電子書籍の未来 ～読書バリアフリー、 教育現場編～	電子書籍の登場により、読書バリアフリーの取組みや教育現場において、読書の可能性が大きく広がっている。これから電子書籍はどのような方向に進んでいくのか、電子書籍事業者に近況報告をお願いする。	＜発表者＞ ・株式会社 紀伊國屋書店 デジタル・流通事業本部 デジタル 情報営業部長 西田 和之 氏 ・株式会社 図書館流通センター 電子図書館推進部長 金子 哲弥 氏 ・株式会社 メディアドゥ IP・ソリューション事業本部 出版ソ リューション推進部 電子図書館推 進課 シニアマネジャー 瀬尾 昌也 氏
3	対談：大人も本を読ん でいないといわれるけ れど…。	大人にとって読書とは？ 鳥取市内で長年にわたり本を手渡し続けてきた書店主と、本と人をつなぎ新しい本との出会いを届ける「読書室」主宰のお二人に、大人になってからの読書の意味についてお話しいただく。	＜対談者＞ ・定有堂書店 店主 奈良 敏行 氏 ・読書室 主宰 三砂 慶明 氏
4	NPO本の学校・特別 分科会「ニジノ絵本屋 の物語～本屋さんで、 絵本の出版社で、絵本 パフォーマー～」	絵本を売るだけでなく、絵本を作る、絵本を背負って様々な場所でイベントを開催する。既存概念を楽しさで吹き飛ばす絵本屋店主にその体験談を語ってもらう。	＜講師＞ ニジノ絵本屋 代表 いしい あや 氏
5	図書館応援団大交流会	県内で活動する図書館応援団が集い、その取組の紹介や情報交換を行う。※応援団活動に関心のある方もご参加いただけます。	参加を希望する応援団の皆様

8 日 程

時間	内容
9：30～10：00	受付

10:00～10:15	開会行事
10:15～11:45	基調講演
11:45～13:15	休憩
13:15～14:45	特別報告・事例発表
14:45～15:00	休憩
15:00～16:30	分科会

※開催方法の変更や中止などのお知らせがある場合には、当日午前7時を目途に鳥取県立図書館ホームページに掲載します。

- 9 参加対象 県民の皆様、県内公共図書館関係者、県内学校図書館関係者、幼稚園・保育所関係者、家庭文庫・読み聞かせボランティア等
- 10 参加費 ○鳥取県図書館協会の会員：無料
 ・同時入会可：年会費一口2,000円以上：入会した場合の大会参加費は無料
 ・施設・団体会員は団体・施設ごとに1名が無料。
 ○会員外：会場・オンライン参加問わず参加費500円。
 ・オンライン参加者は資料を無料でダウンロードできます。ダウンロードが困難な方には郵送いたしますのでお知らせください。（資料郵送代：会員無料、会員外215円）
 ※支払い：会場参加の方は当日受付で、オンライン参加の方は8月11日（月）まで（資料の郵送を希望される方は8月4日（月）まで）に以下の口座にお振込みください。振込名義は参加申込者名としてください。また、振込手数料はご負担ください。
振込先：〈郵便振替〉 口座番号：01360-5-93397 口座名：鳥取県図書館協会
- 11 開催方式 会場参加及びオンライン参加
 ※オンライン配信はZOOMで実施します（後日の配信はなし）。
 全体会は全編配信し、分科会は第1～4分科会の配信を行います。
 第5分科会の配信はありません。
- 12 定 員 会場参加 300名 オンライン参加 300台 ※個人視聴のみ
- 13 申込締切 8月11日（月）※オンライン参加で資料の郵送を希望される方の申込締切は8月4日（月）
- 14 問合せ先・申込先・申込方法 等
【問合せ先】 鳥取県図書館協会事務局（鳥取県立図書館内）
 電話：0857-26-8155 ファクシミリ：0857-22-2996
 電子メール：toshokan@pref.tottori.lg.jp
【申込先】 第30回鳥取県図書館大会実行委員会事務局（日南町図書館内）
 電話：0859-77-1112 ファクシミリ：0859-77-1114
 電子メール：s1051@town.nichinan.lg.jp
【申込方法】 QRコードからGoogleフォームでお申込みください。
 ※Googleフォームが利用できない方は、チラシ裏面の申込用紙により、日南町図書館へメール、またはファクシミリでお申込みください。
 ※チラシ（申込用紙）は鳥取県立図書館のホームページからダウンロードできます。
 ※フォーム、メール、ファクシミリでの申込みが困難な方は、電話でご連絡ください。
【個人情報の取扱いについて】
 提出いただいた個人情報は、本大会運営の目的にのみ使用し、その他の目的には使用しません。
 ※申込用GoogleフォームQRコード →
 QRコードURL：<https://forms.gle/SnG6UQwfgp9V9S1M8>



15 手話通訳・要約筆記等について

- ・全体会：手話通訳者と要約筆記者を配置します。
- ・分科会：申込時のご希望に応じ、予算の範囲内で、手話通訳者、要約筆記者を配置します。
- ・配布資料の拡大印刷やデータの提供等が必要な方は鳥取県図書館協会事務局までお知らせください。

16 情報交換会について

日時：令和7年8月18日（月）午後6時から

会場：『弥栄（いやさか）』 米子市明治町196（駅前通り）電話050-5488-3799

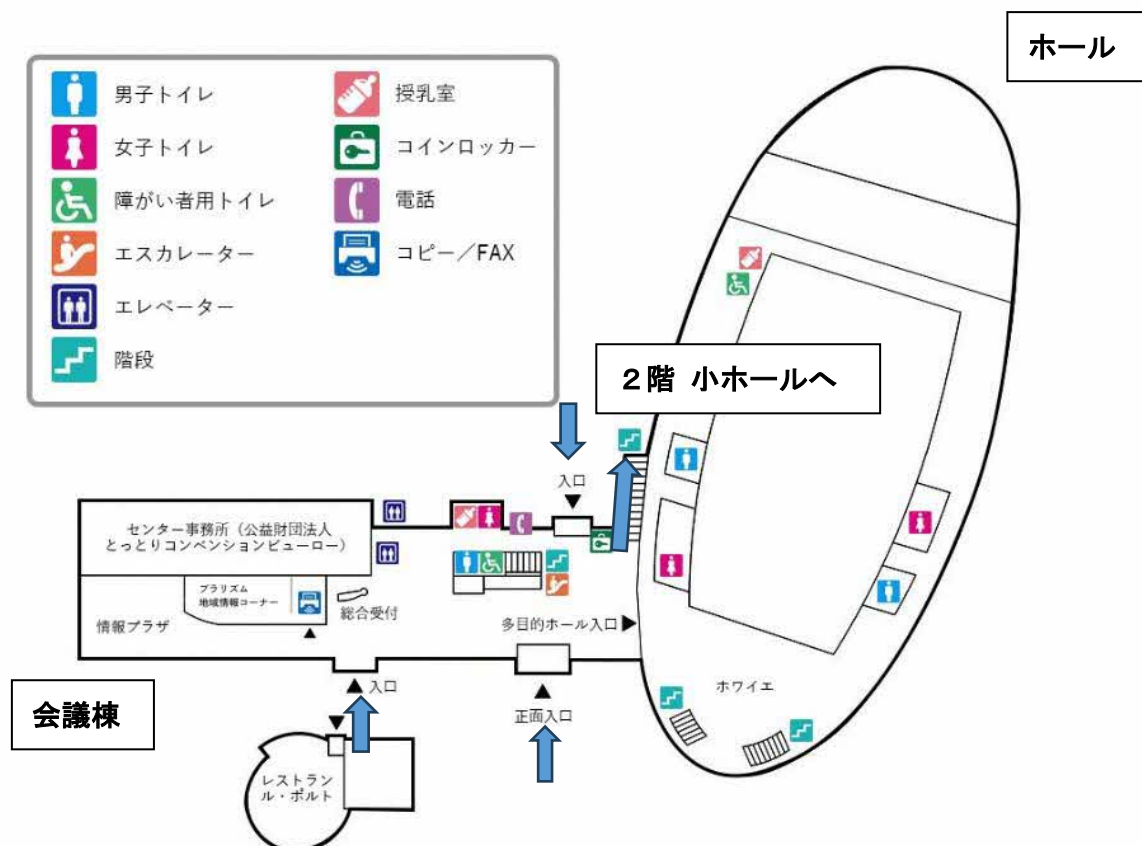
定員：50人

参加費：6,000円

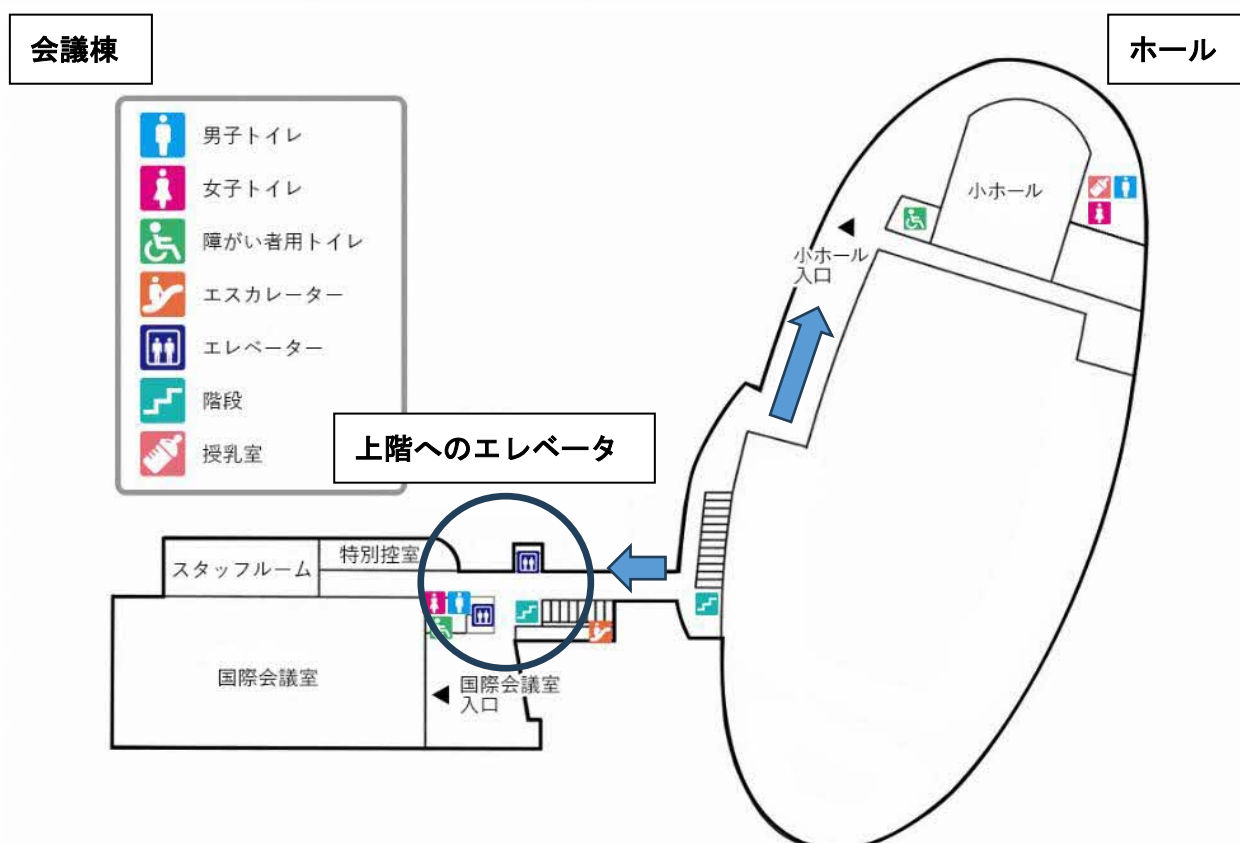
会場案内

プログラム	会場
開会行事	小ホール（ホール2階）
基調講演	小ホール（ホール2階）
特別報告／事例発表	小ホール（ホール2階）
分科会 1 発進！移動図書館車	第 2 会議室（会議棟3階）
分科会 2 電子書籍の未来 ～読書バリアフリー、教育現場編～	小ホール（ホール2階）
分科会 3 対談：大人も本を読んでいないといわれるけれど…。	第 3 会議室（会議棟3階）
分科会 4 ニジノ絵本屋の物語 ～本屋さんで、絵本の出版社で、 絵本パフォーマー～	第 4 会議室（会議棟5階）
分科会 5 図書館応援団大交流会	第 1 会議室（会議棟3階）

1階フロア

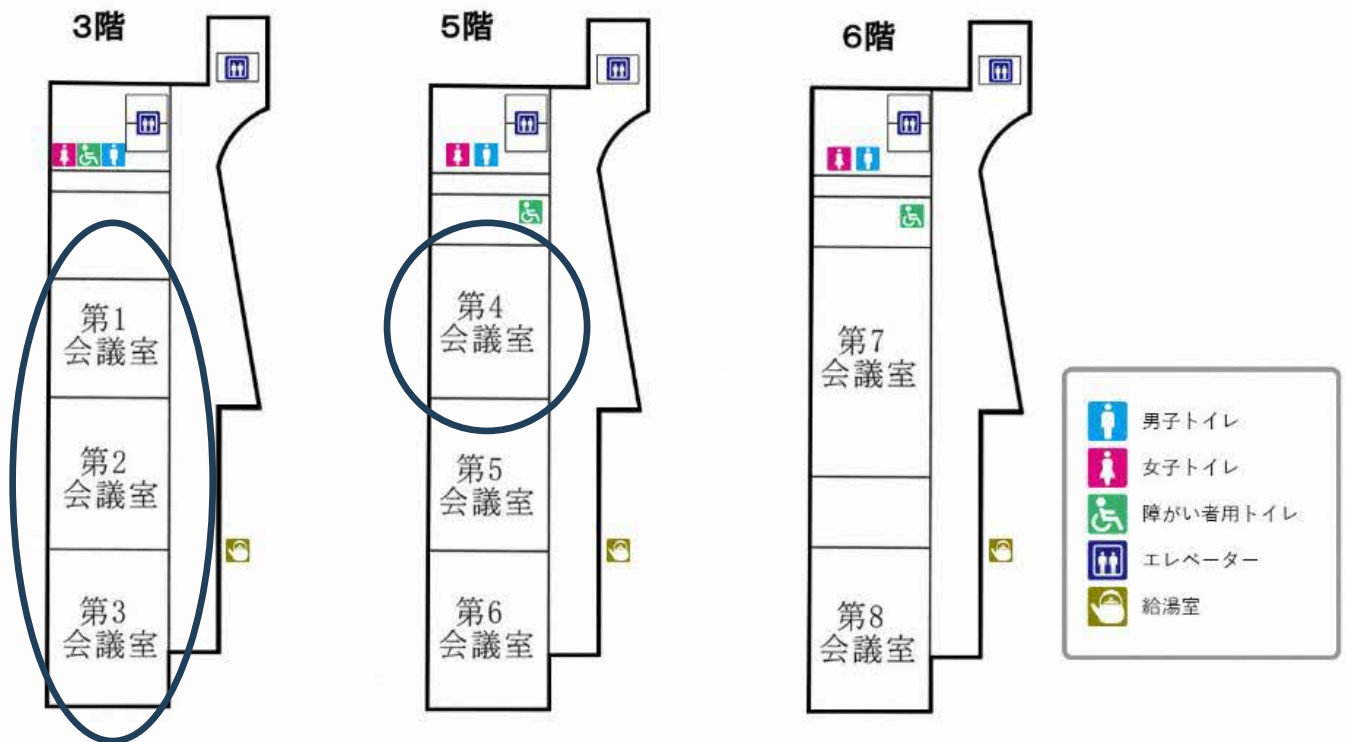


2階フロア

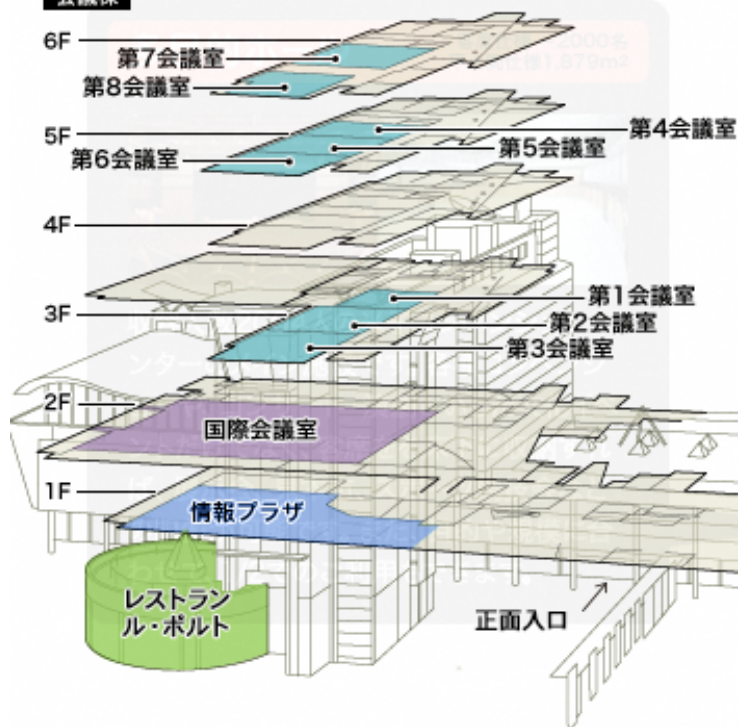


3階・5階・6階フロア

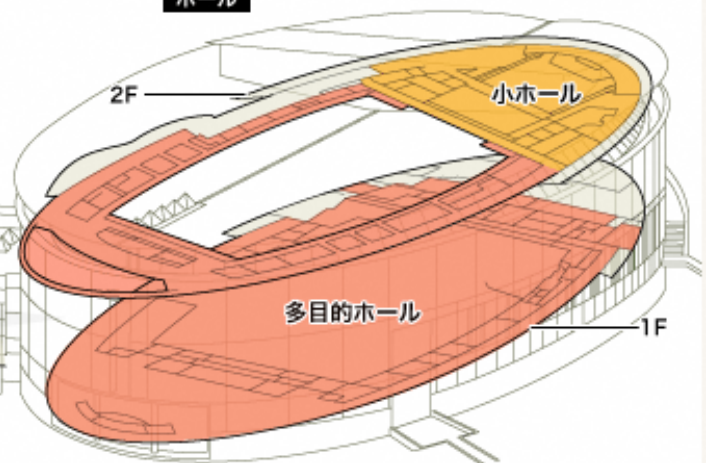
会議棟



会議棟



ホール



基調講演

若者の読書離れは本当なのか？

データから見る実態と、実際によく読んでいる本

講師：飯田 一史 氏（出版ジャーナリスト・ライター）

※レジュメ資料はありません。

【講師プロフィール】

1982年青森県むつ市生まれ。中央大学法学部法律学科卒。グロービス経営大学院経営研究科経営専攻修了（MBA）。出版社にてカルチャー誌や小説の編集に携わったのち、独立。ウェブカルチャー、出版産業、子どもの本、マンガ等について取材、調査、執筆している。J P I C読書アドバイザー養成講座講師。電子出版制作・流通協議会「電流協アワード」選考委員。インプレス総研『電子書籍ビジネス調査報告書』共著者。

著書に『町の本屋はいかにしてつぶれてきたか』『「若者の読書離れ」というウソ』『マンガ雑誌は死んだ。で、どうなるの？』『ウェブ小説30年史』ほか。

特別報告・事例発表

読書と人をつなぎ・つなげる取組最前線 ～子どもの読書環境を支える現場はいま～

<報告者>

福本 哲也 氏（鳥取県教育委員会事務局 社会教育課長）

<事例発表者>

竹本 幸子 氏（北栄町立北条こども園 園長）

砂流 誠吾 氏（日野町立日野学園 校長）

高山 紫織 氏（学校法人翔英学園 米子北高等学校 学校司書）

鳥取県子どもの読書活動推進ビジョン 第5次計画



令和7年8月18日 第30回鳥取県図書館大会
鳥取県教育委員会事務局社会教育課
福本 哲也

子どもの読書活動の意義

子どもが、言葉を学び、感性を磨き、
表現力を高め、創造力を豊かなものにし、
人生をより深く生きる力を身に付けていく
上で欠くことのできないもの

【子どもの読書活動の推進に関する法律第2条】

子どもの読書活動の推進

- ◆政府は、「子ども読書活動推進基本計画」
を策定しなければならない。
- ◆都道府県は、「都道府県子ども読書活動推進計画」
を策定するよう努めなければならない。
- ◆市町村は、「市町村子ども読書活動推進計画」
を策定するよう努めなければならない。

【子どもの読書活動の推進に関する法律より】

鳥取県子どもの読書活動推進ビジョン

鳥取県の未来を担う子どもの
心豊かな成長を促すため、
子どもの読書活動推進のための
ビジョンを掲げ、
実現に向けた方針と取組の方向性を示す

ビジョン（第4次計画）中の動き（H31～R6）



- ◆COVID-19による学校や図書館活動の制限
- ◆GIGAスクール構想の推進
- ◆SNSなどコミュニケーションの変化
- ◆新聞離れや大人の読書離れ・・・

5

子どもの読書活動の意義



読解力や想像力、思考力、表現力を養う
読書活動は、
子どもが様々な社会的変化を乗り越え、
豊かな人生を切り拓いていくための
資質や能力を育む上で不可欠なもの

【鳥取県子どもの読書活動推進ビジョン】

6

ビジョン（第5次計画）に向けて



- ◆すべての子どもたちが読書に親しむことのできる読書環境の整備
- ◆デジタル化社会に対応した読書環境の整備
- ◆子どもの読書活動を支える人材の育成
に重点をおきながら、
家庭・地域・学校等が連携し、
社会全体での子ども読書活動を推進

7

本県の子どもの読書活動の状況①



○年長児の保護者の9割が家庭での読み聞かせ等をする一方、
1割弱が読み聞かせ等を全く行なっておらず、
家庭における子どもの読書活動の二極化がみられる。

○OH29とR5との比較では、読書が好きないん童生徒の割合が
中3のみ増加するも、その他の学年は減少。

(小3) 90.1% → 89.0% (▲1.1) (小6) 83.2% → 77.0% (▲6.2)
(中3) 80.7% → 82.2% (+1.5) (高2) 75.2% → 67.4% (▲7.8)

※R5全国学力・学習状況調査「読書が好き、どちらかと言えば好き」
(小学校) 72.0% (中学校) 66.0%

8

本県の子どもの読書活動の状況②



○学年が上がるにつれて『読書をしない』、
『図書館を利用しない』傾向

- ・一か月間に一冊も本を読まない児童生徒の割合（不読率）
（小3）3.0％（小6）9.8％（中3）16.0％（高2）35.0％

※R6学校読書調査「不読者」

（小学生）8.5％（中学生）23.4％（高校生）48.3％

- ・図書館に行く児童生徒の割合

公立図書館	（小3）72.3％	（小6）61.7％	（中3）56.9％	（高2）39.9％
学校図書館	（小3）97.2％	（小6）95.4％	（中3）72.2％	（高2）56.8％

基本理念



すべての子どもが読書に親しみ、
心豊かな経験を通して生きる力をはぐくむ

ビジョン1



▶すべての子どもが自分の興味・関心に
合った本に出会い、楽しみながら自主的
に読書に親しむことで、生涯にわたる
読書習慣を身に付けていきます。

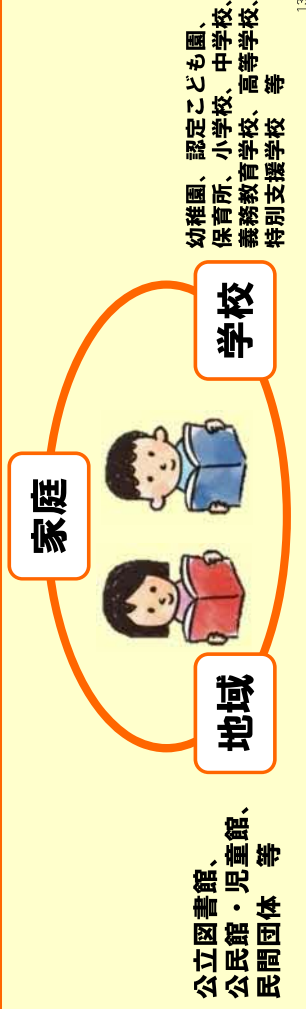
ビジョン2



▶すべての子どもが読書を通じて言葉を
学び、感性を磨き、表現力を高め、
創造力を豊かなものとし、急激に変化
する社会を生きていくための人間性や
社会性を育んでいきます。

ビジョン3

▶ **家庭・地域・学校等が連携し、社会全体で子どもの読書活動を推進します。**



子どもの読書活動推進のための方策

【方針1】 すべての子どもが読書に親しむ機会を保障する環境づくり

【方針2】 子どもの読書活動を支える人材の育成

【方針3】 子どもの読書活動の普及啓発

【方針1】 すべての子どもが読書に親しむ機会を保障する環境づくり

1 家庭における子どもの読書活動の推進

2 社会における子どもの読書活動の推進

3 学校等における子どもの読書活動の推進

家庭

における
子どもの読書活動
の推進

・ 妊娠期からの保護者啓発

・ ブックスタート事業の継続実施

・ 鳥取県子ども読書アドバイザーの派遣

・ 発達段階に応じたおすすめ本の紹介

・ 出前図書館、大型集客施設におけるイベント 等



鳥取県子ども読書アドバイザーの派遣の様子

【方針1】すべての子どもが読書に親しむ機会を保障する環境づくり



地域

における
子どもの読書活動
の推進

＜公立図書館＞

- ・おはなし会の開催 ・図書館DXの推進
- ・障がいのある子どもや外国にルーツを持つ子どもへの取組の充実 等

＜公民館・児童館等＞

- ・読書環境の整備 ・公立図書館との連携
- ・おはなし会等の推進 等

＜民間団体等＞

- ・図書館や書店等との連携 等

17

【方針1】すべての子どもが読書に親しむ機会を保障する環境づくり



学校等

における
子どもの読書活動
の推進

＜幼稚園・認定こども園・保育所等＞

- ・異年齢交流における小・中・高校生等の乳幼児児への読み聞かせの実施
- ・保護者への啓発 等

＜小学校・中学校・義務教育学校・高等学校＞

- ・学校図書館の資料の充実
- ・図書委員が主体となった読書に関する行事の企画 等

＜特別支援学校＞

- ・障がいの種類、程度や発達段階に応じた資料の提供 等

18

【方針2】子どもの読書活動を支える人材の育成



1

司書教諭・学校司書・図書館職員等の配置と専門性の向上

2

幼稚園教諭・保育教諭・保育士の

子どもの読書活動に対する理解や技能の向上

3

公民館・児童館職員等の

子どもの読書活動に対する理解や技能の向上

4

読書ボランティア等への支援

19

【方針3】子どもの読書活動の普及啓発



1

「子ども読書の日」等に合わせた啓発・広報の実施

2

発達段階等に応じたおすすめ本の紹介と活用の推進

3

子どもの読書活動推進事例や優良事例の発信

20

推進体制の充実



県
の推進体制の充実

鳥取県教育委員会は、知事部局等の関係各所とも連携しながら子どもの読書活動を推進するための具体的な取組を実施します。

市町村
との連携・協力
体制の充実

全県で総合的に子どもの読書活動を推進するため、県は市町村と連携し取組を進めます。

民間団体等
との連携・協力

県と市町村は、子どもの読書活動推進について重要な役割を果たす機関・団体（民間団体、読書ボランティア、出版社、新聞社等）と連携し、推進します。

21

まとめ



読書活動は、子どもの読解力や創造力、思考力、表現力等を養い、豊かな言葉とところを育んでいきます。

今回策定したビジョンの実現に向け、家庭・地域・学校等が連携し、子どもが「読書は楽しい！」と思える環境づくりに取り組んでいきます。



22

【開催決定！！】

鳥取県子どもの読書活動推進フォーラム



中学生・高校生ポツポツテスト2025

日にち：令和7年12月12日（金）

会場：エースバック未来中心

登壇者（予定）：

野口 武悟 氏（専修大学文学部教授）

佐藤 賢輔 氏（東京大学大学院教育学研究科附属発達
保育実践政策学センター特任教授）

募集期間：令和7年8月1日（金）
～9月26日（金）

募集部門：デザイン部門

キャッチコピー部門

詳しくは

社会教育課ホームページを
ご確認ください！



23

24



社会教育課のSNS

やっています

なにに？ ふむふむ
YouTube!Instagram!TikTokまで!
精力的に頑張ってるようじゃのう。

みんな 要チェックじゃ！



YouTube



Instagram



TikTok



25

えほん だいすき！

絵本を通した親子のふれあいと
豊かな心と言葉の育成



北栄町立北条こども園

園児数 166名
職員数 32名



絵本の部屋



絵本の部屋（3歳未満児）

家読（うちどく）

○対象児 … 3歳以上児親子
○期 日 … 第1・第3金曜日



小学校4年生らっきょうレンジャー

A group of people, including several wearing yellow hats, are sitting in a circle on a wooden floor, engaged in a discussion or activity.

A group of children and adults are gathered on a wooden floor. A speech bubble from the top left corner contains the text "TV".

きみのことがだいすき
Aki Kuroda
1992. 5. 10

『きみのことがだいすき』

(北条こども園 00 00)


第20回日本数学史学会大会
 日時 11月20日(土) 11月21日(日)
 会場 東京大学 駒場キャンパス
 入場料 学生 500円 一般 1000円
 申し込み 11月15日まで
 問い合わせ 日本数学史学会 事務局
 〒100-8302 東京都千代田区千代田 1-3-1 日本数学史学会 事務局
 TEL 03-5541-1111 FAX 03-5541-1112
 E-MAIL jshs@jshs.jp

まとめ

○成果と課題

- ・保護者生活アンケートより

○今後に向けて

- ・絵本を楽しもう！

いろいろな楽しさを味わえる 学校図書館へと進化し続け…

日野町立日野学園

砂流 誠吾



1 本校の概要

- (1) 学校名
- (2) 所在地
- (3) 開校年月
- (4) 校種
- (5) 校訓
- (6) 児童生徒数
- (7) 学級数
- (8) 学校目標
- (9) 学校教育推進の基盤

日野町立日野学園

鳥取県日野郡日野町野田271

令和5年4月

義務教育学校

向学・友愛・誠実・自主

101名（前期課程70名、後期課程31名）

※令和7年7月31日現在

10学級（うち特別支援学級1学級）

進んで地域と関わり合い、自他を尊重し、目標を掲げ
生き生きと学び活動する児童生徒の育成

学校教育推進の基盤

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施
教育DXの推進



2 本校の学校図書館

- (1) 配置
- (2) 面積
- (3) 座席数
- (4) 蔵書冊数
- (5) 配備新聞数

昇降口棟1階
約186㎡

40席

15,543冊

全国紙2紙

地方紙1紙

子ども新聞2紙

中高生新聞1紙

1,200千円

・図書購入費

・School e-Library使用料 74千円※全児童生徒にアカウント付与

司書教諭1名、学校司書2名

(6) 年間予算

1,126千円

(7) 担当者人数

2 本校の学校図書館



【学校図書館出入口周辺】
ドアの両側には、格子状の飾り棚、右には掲示
板があり、季節や時事に合わせた情報や図書を
工夫して展示している



【掲示板への展示】
・芸人×文学（上）
・6月10日 時の記念日（中）
・左利き展（下）



2 本校の学校図書館



【ソファで談笑】

来校されたモンゴルJRCメンバーと、ソファでくつろいで談笑した。右後方にはコミックを置いており、自由に読むことができる。



【イベントの開催】

- ・卒業・入学式の生花を利用してお花を生けよう（上）
- ・児童生徒が描いたイラスト作品展（中）
- ・昼休憩ライブ（下）



3 学校図書館活用教育

(1) 学校経営の重点と具体的な方策

○学校図書館機能（読書/学習/情報）の活用

【読書センター機能】

- ・読書の習慣化を図り、豊かな人間性と情操、創造性を育む活動の推進
- ・読書への興味・関心の喚起、読書できる力を育む活動の推進（読み聞かせ、ブックトーク、読書会、パネルシアターなど）

※日野町図書館、日野高校図書館との連携

【学習センター機能】

- ・児童生徒の主体的な学習活動の支援
 - ・児童生徒が学習を深め、広げていくための支援（図書・情報ファイル、新聞等の資料整備・提供、チーム・ティーチングによる授業支援、児童生徒の学習成果物の収集・展示など）
- ※NIE (Newspaper In Education) の推進



3 学校図書館活用教育

【情報センター機能】

- ・多くの情報の中から有効な情報を収集し、評価、比較、検討し、自分なりの考えを含めて発信する力を育む活動の推進（学校図書館の使い方、情報の探し方、資料の使い方、情報リテラシーなど）

(2) 学校図書館教育重点目標

児童生徒の学びを広げ、心豊かな児童生徒を育成する学校図書館

- 1) 読書に親しむ児童生徒の育成
- 2) 「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての3つの機能の充実
- 3) 利用指導、利用計画の充実



3 学校図書館活用教育

(3) 推進計画

- 1) 学校図書館の利用
 - ・利用時間 登校時刻（7時45分頃）～下校時刻（17時50分頃）
 - ・図書貸出時間 7時50分～16時35分
- 2) 学習・情報センターとしての活用
 - ・担任、司書教諭、学校司書が連携した図書館を活用した授業の実施
 - ・調べ学習に必要な資料の収集 他
- 3) 地域との連携、協力
 - 日野町図書館との連携
 - ・学習に必要な資料の借入（随時）
 - ・ブックトークの実施（前期課程）
 - ・朝の読み聞かせ、地域読み聞かせボランティア、日野高校との連携



3 学校図書館活用教育

○日野町子ども読書推進委員会との連携

- ・日野町子ども読書推進計画による取組
- ・「日野町読書キャンペーン」への積極的な連携、参加

○地域への開放

4) 家庭との連携

- ・図書館だよりの発行

※本及び作者の紹介、図書館活用の様子、利用状況等

5) 朝読書

○目的

- ・本に親しむ態度を育てる。
- ・静かに本を読む時間を持つことで、落ち着いた気持ちで朝のスタートを切る
- ・ことがでるようになる。

○時間 毎日8時20分～30分

○絵本・物語読み聞かせ（1・2年 毎週月曜日）

○内容 原則、文字が中心の本



3 学校図書館活用教育

6) 各教室の学級文庫

- ・定期的に学校司書、児童生徒会文化委員が入れ替えを行う。
- ・学習に必要な本は、担任、授業担当が司書教諭、学校司書に依頼する。
- ・家庭への持ち帰りはしない。

7) Webページの作成

- ・図書館活動の様子を学校Web ページに随時掲載、更新する。

※<https://sites.google.com/g.torikyo.ed.jp/hinogakuen-ces/学校図書館>

8) カーリル（図書館蔵書検索サービス）の利用



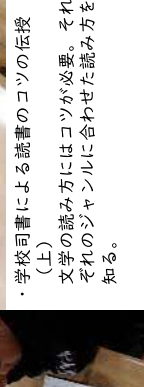
4_1 読書センター機能



・文化委員による選書（下）
新刊紹介の本カATALOGのほしい本に付箋を貼る。



・高校司書によるブックトーク（左）
司書の体験談や高校の様子の話も交えて、進学や未来に向けた本を楽しく紹介した。



・学校司書による読書のコツの伝授（上）
文字の読み方にはコツが必要。それぞれのジャンルに合わせた読み方を

School e-Library



・ School e-Libraryの利用



・ポランディアによる読み聞かせ（上）
・図書館 de 水族館（下）
館内を海中に見立て、その中で読書



4_2 学習・情報センター機能



・まわしよみ新聞づくり（左上）
気になる新聞の記事を切り取り模造紙にまとめる。

・四大公害病を調べる（右上）
過去に川が汚染されたことで様々な病気が流行った。なぜ流行ったのか、その後どうしてきたのかといった疑問を、取り寄せた資料やポプラデ

・新聞でSDGsを学ぼう（左下）
1人1部新聞を読んで、SDGsに
関係のある記事に付箋を付け、コメントを書き込む。最後に全体で
回し読み、他の人がどんな記事に
注目したのか確認し合う。

・秋みつけ～秋をおぼえよう（右下）
「秋みつけ」の後で、本でたくさ
んの秋を紹介。最後は秋をテーマ
にしたカルタを作る。



4_2 学習・情報センター機能

・メダカの卵のふ化（右）
心化したばかりのメダカと一緒に
関連する本を展示



・単元の前後に作成した授業に役立つ
リーフレットや、受験前の生徒、保
護者向けの冊子を展示（下）



・プラナリア切断式（下）
理科の教員が分裂して増えるプ
ラナリアを、メスで切った後、
出入口付近に展示



・英語でハロウィーン（左）
実際に英語でほしい色や数を相手
に伝え、元気に
「Trick or Treat！」



学校図書館が、

- ・児童生徒の知的好奇心を掻き立て、あるいは満たす場所として
- ・地域とともにある学校づくりを進める重要な場所・機会として
あり続けられるよう、さらに進化していきたいと考えています

4_3 地域への開放

【赤ちゃんとお母さん】
子育て支援室「おひさま広場」から赤ちゃんとお母
さんが来館。ピアノ演奏、手遊びや絵本の読み聞か
せを楽しまれた。
この後、児童との交流も実現した。



【地域住民への読み聞かせ】

日野町地域学校協働本部が企画された事業
「日野学園フェス」で、そこに参画した生
徒が、来場者（地域住民）に読み聞かせを
行った。



【地域の方 小さな写真展】
日野中学校卒業生の方が、趣味で撮りた
めた友達や風景の写真を、学校図書館前
の壁にたくさん飾ってくださった。



ご清聴ありがとうございました



BAUM完成から現在まで

発表者の紹介

- 名前：高山紫織（たかやましおり）
- 大阪府出身
～2024年3月まではずっと近畿地方に、2024年4月～米子市に移住
大学卒業後3年教員をやり、その後2年間大学図書館で働く
図書館司書の資格は通信で取得
現在高校司書2年目



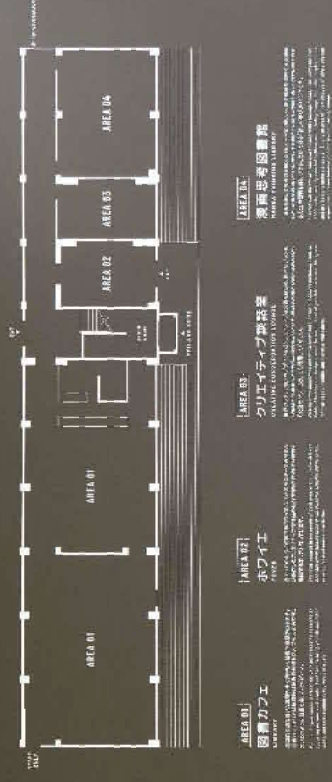
米子北高等学校

- 生徒数：682名（2025年6月30日現在）
- 普通科（キャリアデザインコース、進学コース、特別進学コース）、看護科（看護師養成コース）、看護専攻科
- 3つの学校が1校にまとまっている感じ



BAUM

Yonago Kita High School Library



放送部作成のBAUM紹介動画



なぜ移行することにしたのか

- ・図書館が活用されていないという現状
 - ・多様な生徒がいる中で、共通の学びをつくる場所とは
- ⇒図書館
- 本を読むことが深い学びにつながる、自ら学びを深めていける場
学校の中心に持っていきたい
- ・コンセプトは「森」＝「学校の中心に森をつくる」
 - ・従来の図書館よりフランクなものにしたかった



「LIBRARY CAFE」へ



まさかの...

- ・図書館の引っ越し
 - ・前職場でも書庫の引っ越し作業を行っていたので、「まあいけるかな」と考えていた
 - ・実際に引っ越し作業に着手したのは結構ギリギリ
 - ・①廃棄図書を選定
 - ・②レイアウト決め
 - ・③棚ごとに入る本の長さを計算し、旧図書館の残っている本の長さとしすりあわせる
 - ・④1段ごとに段ボールに詰めていく
- + 図書のデータ化（同時並行）



2024年10月
完成！

生徒はなぜBAUMに来るか

- BAUMという空間に力がある
- 集中して勉強できるから
- 夜遅くまで空いているから（最大20時まで開館）
- 本を借りるため
- 時間つぶしとしての利用

約3倍！！

- 貸出冊数（2025年6月1日～6月30日）

総冊数130冊（内生徒110冊、教員20冊） 前年度同時期45冊（内生徒39冊、職員6冊）

結果として

- 生徒が図書館に来る機会が増えた
- ⇒ 本を目にする機会も多くなった
- ⇒ 卒業後も公共図書館や大学図書館に訪れるきっかけに
- 多様な生徒の共通の学びの場となっているか
- ⇒ 道半ば

読書推進イベント

- 「夏の読書応援キャンペーン」
- セタ企画「星に願いを」
- 職員室内出張図書館
- 美術の授業とコラボ
- 今年は情報センターとしての役割を充実させる年にしたい
- → 生徒の検索システムを整備、オンラインインデクサーベースの導入、デジタルバスファインダーの作成など

課題

- 場としての利用が中心
 - 調べ学習など情報収集の場としての利用を増やしたい
- 滞在する人数の少なさ
 - 勉強のために残る生徒は数人（時期的な問題もあるかもしれないが）
 - 読書のために残る生徒はほとんどいない
- ⇒お菓子もOKにする？
食事をOKにされている学校さんありましたらお話を聞かせていただけたらいいです。

ご清聴ありがとうございました。

- アドバイスなどいただけると幸いです。
- 見学などもお待ちしております。

< 分科会 >

○第Ⅰ分科会

発進！移動図書館車

内容：少子高齢化や過疎化により図書館への来館が難しくなる方が増えるなかで、積極的に本を届ける移動図書館車の活動から、これからの図書館サービスのあり方について学ぶ。

<発表者>

中島 泉 氏（鳥取市立中央図書館 館長）

小椋 智子 氏（町立みささ図書館 副館長）

熊沢 菜穂子 氏（米子市立図書館 課長補佐）

永井 美里 氏（大山町立図書館 館長補佐）

※永井美里氏のレジュメ資料はありません。

令和7年度 鳥取県図書館大会 移動図書館事業について

【鳥取市立図書館】



移動図書館車を利用する児童

鳥取市立中央図書館の概要

- ・昭和57年 5月 「鳥取市民図書館」としてオープン
- ・平成16年11月 近隣町村との合併により
「鳥取市立中央図書館」と改称
- ・平成17年 5月 現在の庁舎に移転リニューアルオープン

○蔵書冊数・・・466,516冊（うちBM 22,131冊）
○貸出者数・・・148,044人（うちBM 10,565人）
○貸出冊数・・・631,179冊（うちBM 67,642冊）
○入館者数・・・286,613人
○職員数・・・32人

（うちBM担当司書3名、運転技師4名）

（※数字は令和7年3月31日現在）

鳥取市立図書館の概要

- 鳥取市の人口・・・178,010人
- 利用登録者数・・・79,915人
- 3館6室・・・3館（中央・用瀬・気高）
6室（国府・福部・河原・佐治・鹿野・青谷）
- 蔵書冊数・・・709,048冊
- 貸出者数・・・187,004人
- 貸出冊数・・・781,703冊

（※数字は令和7年3月31日現在）

鳥取市立図書館が所有する移動図書館車たち

鳥取市立中央図書館



なかよし号（H21～）



ふれあい号（H18～）



こだま号（R3～）

鳥取市立用瀬図書館



やまなみ号（H20～）

鳥取市立気高図書館



つばさ号（H17～）

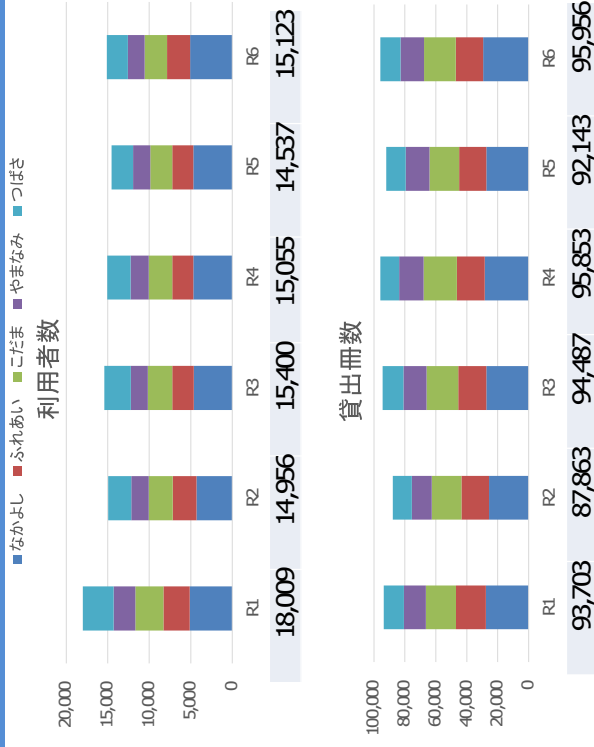
搬送 サービス拠点 177カ所 連携 65カ所 計242カ所

移動図書館車167カ所 (無線オンライン端末搭載)		サービス拠点数 10カ所	搬送車巡回	その他連携機関 65 (搬送車巡回ポイント)	
2週間に1回巡回					
移動図書館車「なかよし号」	31	① 中央図書館	* 4回 / 週	小中学校 義務教育学校 総合教育センター	59カ所 1回/週
移動図書館車「こだま号」	28	② 用瀬図書館	4回 / 週	鳥取大学	2回/週
移動図書館車「ふれあい号」	37	③ 気高図書館	3回 / 週	鳥取環境大学	2回/週
移動図書館車「やまなみ号」	37	④ 国府町図書室	3回 / 週	県立図書館	3回/週
移動図書館車「つばさ号」	34	⑤ 福部町図書室	3回 / 週	コンビニ受取 (湖山西・河原・気高)	1~2回/週
		⑥ 河原町図書室	3回 / 週		
		⑦ 佐治町図書室	3回 / 週		
		⑧ 鹿野町図書室	3回 / 週		
		⑨ 青谷町図書室	3回 / 週		
		⑩ 市立病院窓口	2回 / 週		

いろいろなイベントにも参加しています



移動図書館車の利用状況



移動図書館車事業の課題

- 暑さとの闘い
- 移動図書館車担当職員の休暇
- 車の更新

でもやっぱり移動図書館車はやめられない!!

- ・本館まで行く交通手段がないからありがたい!
- ・読書友達が増えたのがうれしい!
- ・新しい本を中心に本館より規模が小さく配架してあるから悩まず探しやすい!
- ・本の入れ替わりが早いので、新しい本との出会いのチャンスが多い!
- ・司書のスキルアップになります!

ご清聴ありがとうございました。



館内しずちゃん

「BM行ってきます!」

移動図書館の取組と展望

町立みささ図書館 副館長 小椋智子



谷間に沿って点在する集落

三朝町の紹介

- ▶ 人口：5,936人
- ▶ 高齢化率：41.4%
- ▶ 集落数：64集落
- ▶ 保育施設：2園
- ▶ 小学校：1校
- ▶ 中学校：1校
- ▶ 病院：5施設
- ▶ 福祉施設：5施設

2

町立みささ図書館の紹介

開館年月	平成2年7月
蔵書冊数	109,271冊
貸出冊数	76,695冊
入館者数	23,999人
登録者数	7,761人
予約件数	4,417件
資料費	約430万円

数値は令和6年度実績



町立みささ図書館

3

移動図書館の位置づけ

①町民一人ひとりの生涯にわたる自主的な学習を支える図書館

誰でもどこでも図書館サービスを利用できる仕組みを目指します。

②学校・家庭・地域を結び、地域教育力の向上を支える図書館

子どもたちの読書活動と自主的な学習活動を支援します。学校との連携を強化し、学校図書館の支援を充実します。

令和7年度三朝町教育事業計画書より抜粋

4

移動図書館車「しゃくなげ号」

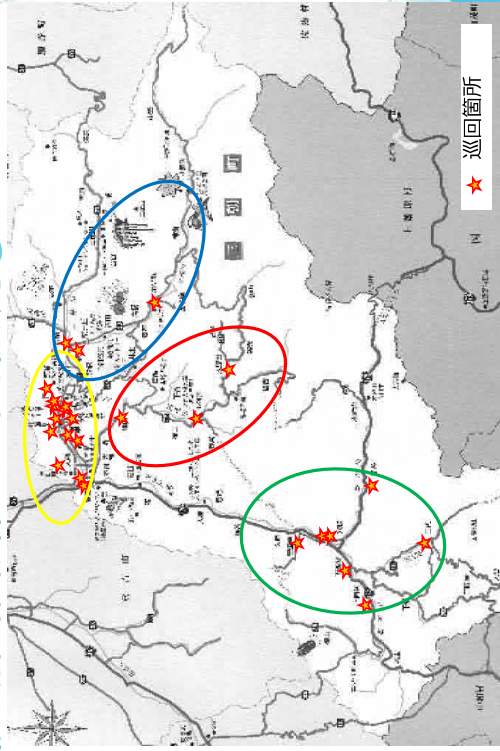


しゃくなげ号

- ◆ 車種：いすゞエルフ
- ◆ 仕様：2 t車 4WD
ディーゼルエンジン
オートマチック
- ◆ 導入年：平成22年6月
- ◆ 積載量：2,000冊
- ◆ 移動図書館の歴史
中央公民館時代～置き文庫方式
平成2年4月～ワゴン車で巡回
平成2年7月 みささ図書館開館
平成7年11月～初代しゃくなげ号
平成22年6月～現しゃくなげ号

5

移動図書館の巡回状況①



6

移動図書館の巡回状況②

場所	箇所数	巡回場所
集落	14	太郎田・小河内・三朝（町営駐車場）・加谷・上西谷・曹源寺・糸戸・東小鹿・三朝（大丸駐車場）・山田・下西谷・田代・鎌田・神倉（休止中）
病院・福祉施設	6	なの花・三喜苑・仁の里・みのりデイサービス・レスポワール（社協）・三朝温泉病院
保育施設等	3	みささこども園・子育て支援センター・賀茂保育園
公民館	2	三徳センター（東学童含む）・竹田公民館
事業所	1	生活の窓口食味
学童クラブ	1	西学童クラブ
学校	1	三朝中学校
美術館	1	三朝バイオリン美術館
計	29	

月1回（西学童は2回）、各コース2人体制で巡回しています 7

移動図書館 巡回の様子①



集落へ巡回

8

移動図書館 巡回の様子②



西学童クラブ

9

移動図書館 巡回の様子③



レスポワール (社会福祉協議会)

10

移動図書館 巡回の様子④



三朝バイオリン美術館



11

移動図書館の役割

図書館から遠い地域では、図書館まで距離のある方、高齢の方など、だれでもどこでも図書館サービスを受けられる。

学校・保育施設・児童クラブでは子どもたちの読書活動や自主的な学習活動を支援する。

病院、福祉施設では入院、入所により図書館へ出向くことができない方も図書館サービスを受けられる。

本に精通した司書が出向く館内と同等のサービスを提供することができる。

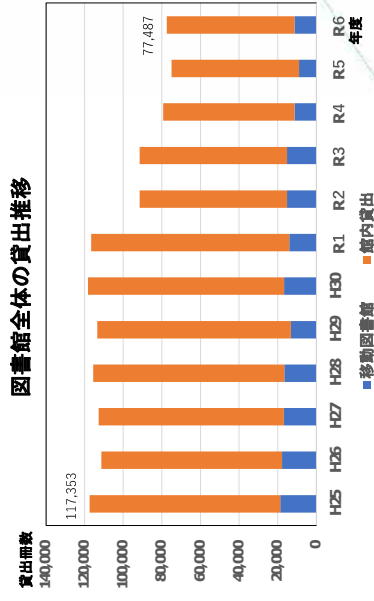


地域の方とのふれあい

12

移動図書館の貸出推移①

令和6年度貸出冊数
図書館全体：77,487冊
移動図書館：11,341冊（全体貸出の約15%）



13

移動図書館の課題と将来展望

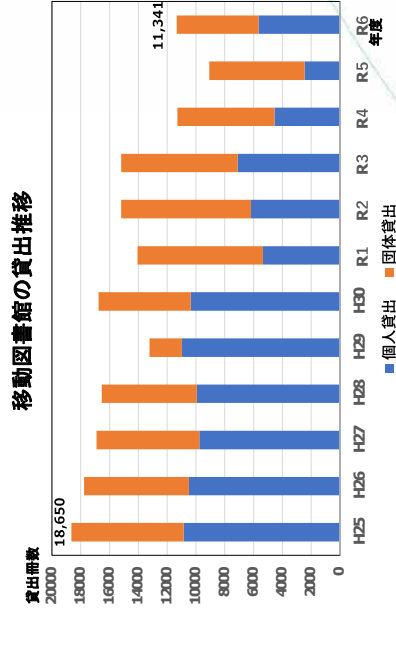
- ◆ 利用者の減少、固定化
 - * 巡回先の見直しと新規掘り起こし
 - * イベントとのタイアップなど
 - * 移動図書館サービスの周知
- ◆ 移動図書館車両の老朽化
 - * 導入から15年経過。車両の更新を検討する時期
 - * 例えば車両の小型化により、きめ細かい巡回に対応
 - * 職員の運転負担の軽減



15

移動図書館の貸出推移②

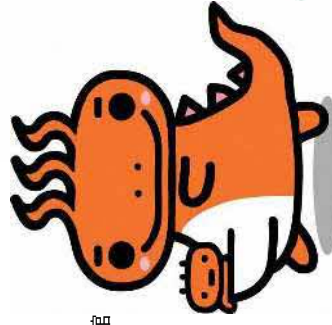
貸出冊数：18,650冊（H25）⇒ 11,341冊（R6）
巡回箇所：38か所（H28）⇒ 29か所（R6）



14

ご清聴ありがとうございました

みささ図書館は開館35周年を迎えました。
今後とも地域のみなさまに愛される図書館
として職員一同努めてまいります。



16

移動図書館車つっし号 ～走る・とどける・繋がる～

第30回鳥取県図書館大会
分科会1「発進！移動図書館車」
令和7年8月18日(月)
米子市立図書館 熊沢 菜穂子

米子市立図書館の歩み

平成2(1990)年9月 県より移管され米子市立図書館としてスタート
平成25(2013)年7月 代替図書館開館
平成25年8月 リニューアルオープン
令和2(2020)年9月 米子市立図書館開館30周年

米子市立図書館の概要



蔵書冊数 約37万冊(図書・雑誌総数)
うち開架図書 15万5003冊
令和6年度
来館者数 26万4878人
新規利用登録者数 1933人
年間個人貸出冊数 59万425冊

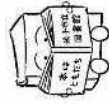
米子市について



米子市イメージキャラクター
ヨナゴーズ



米子市の花 ツツジ



米子市立図書館キャラクター
まなぼん



米子市

令和7年6月30日現在

人口:143,283人

面積:132.42平方キロメートル

東西 21.2km

南北 13.8km

国土地理院地図を加工して掲載

米子市立図書館 7つの運営方針

1. 学べる図書館づくり
市民の読書活動と生涯学習の拠点として、知識と情報の提供に努めます。
2. 役立つ図書館づくり
生活に役立つ図書館をつくります。
3. 使える図書館づくり
誰もが利用しやすい図書館をつくります。
4. 伝える図書館づくり
地域の歴史・文化に関する資料の収集・保存・提供に努めます。
5. 育む図書館づくり
こどもの読書活動を推進し、学校教育を支援します。
6. つながる図書館づくり
ネットワークによる機能的なサービスの提供に努めます。
7. 広がる図書館づくり
図書館の利用拡大に努めます。

移動図書館車 つつじ号



つつじ号の歩み

1966年～
(昭和41年)

鳥取県立図書館時代



米子市立図書館移動図書館車つつじ号 運行開始

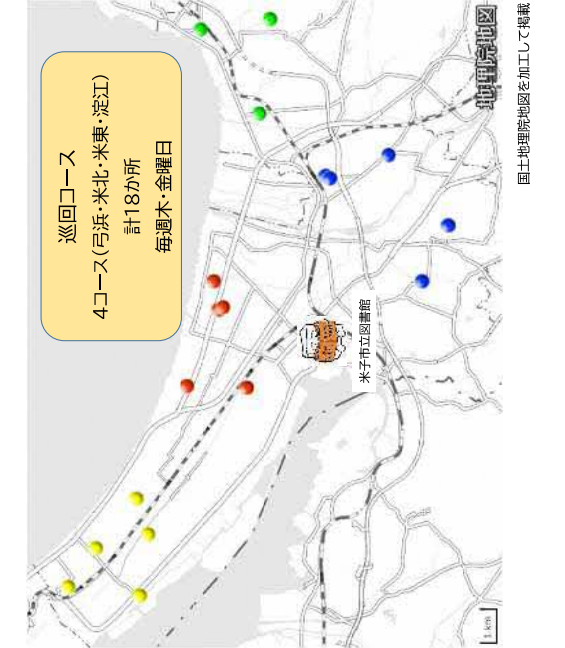
1990年11月28日
(平成2年)



【初代つつじ号】
現在より小型、本の積載量は約1000冊

はじめは6コース・17か所を巡回
子どもから大人まで多くの利用者と関わっている

区分	停車場所	時 間
米東コース（米東）	JA弓浜支所 大徳津公民館 もみの木園・作業所 真鍮会ふる里 ケアハウスリバーサイド	1:10～1:40 2:00～2:30 2:50～3:10 3:20～3:50 4:00～4:30
米北コース（米北）	ケアハウスよなご幸朗苑 智生エスポワール 真鍮会セントラル ローズガーデン	1:10～1:40 2:10～2:40 2:50～3:20 3:25～3:50
米東コース（米東）	福米西公民館 泉郷三柳団地 ふれあい会館 県立米子養護学校 なんふ幸朗苑	4:10～4:30 12:50～1:20 1:40～2:10 2:20～2:50 3:00～3:30
米東コース（米東）	永江公民館 春日公民館 廣公民館	3:40～4:10 1:30～2:00 2:10～2:40
米東コース（米東）	宇田川公民館 淀江公民館 大和公民館	3:00～3:30 3:40～4:10 1:30～2:00 2:10～2:40 3:00～3:30



1か所からスタートした貸出文庫が6か所に

コンピューターを使用した貸出開始
移動図書館車もハンディーターミナルによって処理
貸出冊数は5冊になる

年々巡回先が増え、この頃22か所となり、貸出文庫
も16か所となる

2代目つつじ号巡回開始
2トントラックを専用車に改装
積載量は約1500冊に増加
市内を毎週木曜・金曜日に巡回

巡回先に淀江地区が加わる

貸出冊数が1人10冊になる

【2代目つつじ号】



【淀江地区巡回の様子】
淀江地区の3つの公民館を巡回。車外にはスチール製机と面展台
も設置され、利用者は思い思いに本を選んでいる。

2012年
(平成24年)

図書館リニューアル準備のため
5～6月まで巡回休止

2013年8月
(平成25年)

リニューアル開始
BM・学校支援室



2020年
(令和2年)

乳幼児用貸出文庫配送開始
市内の子育て支援センター、子育てサークル
などへ、乳幼児向け絵本40冊の貸出
現在9か所に配本



【鳥取大学医学部付属病院院内図書室へ】

地域に広がる 貸出文庫サービス

令和7年度現在、移動図書館車で
巡回が困難な場所や、来館が難しい
団体・施設32か所へ配本している
(乳幼児向け・公民館・児童館・民間
ボランティア団体等)。
貸出期間、冊数、ジャンルなど、調
整しながら貸出先の希望に沿うよう
選書している。



【乳幼児向け 貸出文庫セット】



【だっこしん】



【公民館へ貸出文庫入れ替え】



3代目つつじ号巡回開始

2024年
(令和6年)

2018年
(平成30年)

米子市健康フェスタ参加

2019年
(令和元年)

米子市文化財団フェスティバル参加



<出張図書館>

館主催の図書館まつりや、館外のイベントにつつじ号で参加



2代目つつじ号
おつかれさまでした…！

2024年12月
3代目つつじ号へ
バトンタッチ



22年間
ありがとう



3代目つつじ号

令和6年(2024年)12月～



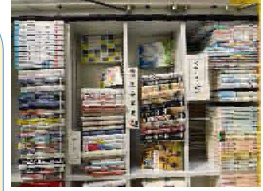
- ・長さ…5m 幅…1.89m 高さ…2.58m
- ・ディーゼルエンジン・オートマチックトランスミッション・4WD
- ・車両総重量 4,615kg
- ・左側内外架 右側内架書架 1,500冊搭載可能
- ・昇降リフト搭載
- ・米子市自治連合会の寄付・ふるさと納税



【巡回先の様子】



- ### ＜特色・取り組み＞
- ・予約、リクエスト受付
 - ・利用者カード現地発行
 - ・図書館のイベントに対応
 - ・相互利用が可能
 - （巡回先、本館での貸出返却）
 - ・ニーズに合わせた展示、選書の強化
 - ・コミュニケーション
 - ・公民館報、SNS 等での広報
 - ・貸出文庫
 - ・出張図書館



【左側外書架の展示】



【図書館へいこうキャンペーン】

- ### ＜運用上の課題＞
- ・悪天候の際の判断
 - ・周知の方法
 - ・暑さ寒さ対策
 - ・巡回ルート・巡回先の見直し
 - ・利用者数の減少・固定化



【米子市立図書館 Instagram】



『大和公民館より 令和7年7月号より掲載』

地域の人々にとっての読書・図書館をより身近なものにしたい

- 図書館の機能が移動する、小さな図書館
市内全域に図書館サービスを行きわたらせる重要なツール
- 知りたい・出会いたい… 地域、住民への発信
蔵書構成
巡回の方法
交流の拠点
etc
- やりたい・つながりたい…活発なコミュニケーション
- “地域の皆さんとともに”



ご清聴ありがとうございました

○第2分科会

電子書籍の未来 ～読書バリアフリー、教育現場編～

内容：電子書籍の登場により、読書バリアフリーの取組みや教育現場において、読書の可能性が大きく広がっている。これから電子書籍はどのような方向に進んでいくのか、電子書籍事業者に近況報告をお願いする。

<発表者>

西田 和之 氏(株式会社 紀伊國屋書店

デジタル・流通事業本部 デジタル情報営業部長)

金子 哲弥 氏(株式会社 図書館流通センター 電子図書館推進部長)

瀬尾 昌也 氏(株式会社 メディアドゥ IP・ソリューション事業本部

出版ソリューション推進部 電子図書館推進課 シニアマネジャー)

※西田和之氏のレジュメ資料はありません。

電子書籍の未来～読書バリアフリー、教育現場編～



TRC図書館流通センター 電子図書館推進部
部長 金子 哲弥

最新の導入実績(2025年7月1日現在)

導入自治体数: 421件 (1,378館) *館数: 公共図書館数

☆参考① 契約数: 395件 (広域/圏域運用・契約の自治体<全国8か所>他±26自治体)
*Libraie&TRC-DLのシェア率 (契約数) : 約82%
<TRC:395件、他社2社計: 83件 (弊社調べ) >

☆参考② 都道府県別の導入先: 東京都、山梨県、広島県、高知県、福岡県 (計5都県)
→都県を除く自治体数: 416件、契約数: 390件

*全国自治体数 (都道府県除く) : 1,741

→普及率: 約23%/自治体数 <LibrariE&TRC-DL>

*サービス利用可能な自治体人口: 約73,100,000人 (416自治体の人口計)
→サービス利用可能率: 約59% <LibrariE&TRC-DL>

*日本の総人口: 約123,590,000人 (2025/1/1住民基本台帳より) に対し

*普及率/自治体数<LibrariE&TRC-DL>の高い都道府県

→福岡県 (65.0%)、埼玉県 (58.7%)、大阪府 (53.5%)、
東京都 (53.2%)、山口県 (52.6%)、兵庫県 (51.2%)、
神奈川県 (48.5%)、栃木県 (48.0%)、奈良県 (41.0%)

*普及率/自治体数<LibrariE&TRC-DL>の低い県 (ゼロ、または1件/自治体)
→長野県 (0)、福井県 (0)、岡山県 (0)、秋田県 (1)、山形県 (1)、
鳥取県 (1)、島根県 (1)、徳島県 (1)、高知県 (1)、佐賀県 (1)

国内電子書籍の提供タイトル (1) <2025年7月1日現在>

ライセンス種別のタイトル数

ライセンス種別	タイトル数
ライセンス販売型 =買い切り型コンテンツ	44,334
期間限定型 =有期限コンテンツ①	53,524
期間・回数限定型 =有期限コンテンツ②	82,918
計	180,776

ライセンス種別のタイトル数比率・平均単価

ライセンス種別	タイトル数	割合
買い切り型コンテンツ	44,334	24.5%
有期限コンテンツ	136,442	75.5%
計	180,776	

※参考:紙図書・平均単価:¥@¥1,790/税別
(TRC販売実績/2024年度上半期)

タイプ種別のタイトル数

コンテンツタイプ	タイトル数	うち音声読上げ
フィックス	76,932	
リフロー	97,369	84,342
リッチ/音声/動画	6,475	
計	180,776	

国内取扱い出版社数:計374社

国内電子書籍の提供タイトル (2)

*電子書籍 (国内書) 関連における基本数値

①電子書籍の年間新刊取扱い点数:

約27,900点 (2024年度実績)

約23,900点 (2023年度実績)

*参考:紙書籍 (コミック&学参除く) →約69,000点/年

②電子書籍の年間購読金額<全国平均> (2024年度実績)

経常予算:約282万円/年

新規予算:約553万円/年 (DL導入時の一括発注分)

*参考:紙書籍<全国平均>→862万円/年 (日本の図書館2023) より)

③電子書籍の全国平均所蔵タイトル数:約7,000点 (2024年度実績)

*独自資料含む

電子と紙の比率
電子: 約20%
紙: 約80%



2019年6月 読書バリアフリー法が成立・施行

基本理念(3条)

- ・アクセシブルな電子書籍等（デジジ図書・音声読上げ対応の電子書籍・オーディオブック等）が視覚障害者等の利便性の向上に著しく資することに鑑み、その普及が図られるとともに、視覚障害者等の需要を踏まえ、引き続き、アクセシブルな書籍（点字図書・拡大図書等）が提供されること
- ・アクセシブルな書籍・電子書籍等の量的拡充・質の向上が図られること
- ・視覚障害者等の障害の種類・程度に応じた配慮がなされること

「Librarie & TRC-DL」は、サイトの閲覧、電子書籍の検索、貸出、閲覧、返却まで、すべての操作で高いアクセシビリティを提供できます

「ハンチバック」(市川沙央著) -図書館界への大きな課題提起-

読書バリアフリー環境について強く訴えた、作家の叫び。私たちにできることは何か？

2023年5月、重度身体障害者の女性が生人公の小説「ハンチバック」第128回文庫新人賞を受賞しデビューした市川沙央さん。7月には同作品が第169回芥川賞を受賞し、大きな話題を呼びました。作中で「読書文化のマチズモ(読者者座主様)」について指摘し、受賞会見で読書バリアフリー環境の改善を訴えた市川さんにメールでお話を伺いました。

市川沙央さん
作家



市川沙央さん

以下、国立国会図書館のHPより

令和元年6月、「視覚障害者等の読書環境の整備に関する法律」（令和元年法律第49号。以下「読書バリアフリー法」という。）が施行された。令和2年7月には、同法第7条の規定に基づき、文部科学省及び厚生労働省において「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する基本的計画」（以下「基本計画」（第一期））が策定された。基本計画（第一期）では音声読上げ機能等に対応したアクセシブルな電子書籍等を提供する民間電子書籍サービスについて、関係団体の協力を得つつ図書館における適切な基準の整理等を行い、図書館への導入を支援するための施策の推進を図ることとされた。関係省庁との協議の結果、当該施策は、国立国会図書館が中心となって取り組むこととなった。

この施策を実施するものとして、令和5年7月、「図書館におけるアクセシブルな電子書籍のアクセシビリティガイドライン1.0」という。（事務局：国立国会図書館、別紙1参照）が「電子図書館のアクセシビリティガイドライン1.0」（以下「ガイドライン1.0」という。）を公開した。本ガイドラインは、ガイドライン1.0策定時に中長期的課題と整理されたアクセシビリティ機能について、令和5年度から令和6年度にかけて検討を進め、検討会で合意を得た機能を要件として追加したものである。

本ガイドラインは、ガイドライン1.0において中心とした音声読み上げに加えて、色反転、フォントの指定、字間・行間の調整、縦書き・横書きの切替えをアクセシビリティ機能として追加し、それらに関するアクセシビリティ要件を「6. 対応方法」に記載した。この際、ガイドライン1.0から削除したアクセシビリティ要件はない。

また、Web Content Accessibility Guidelines（以下「WCAG」という。）2.1以降には認知・学習機能障害に対応する達成基準が記載されたことを受けて、参考規格については、ガイドライン1.0で参照したJIS X 8341-3:2016に加えて、WCAG 2.1、WCAG 2.2及びその達成方法集を組づけた。これに伴い、WCAG 2.1以降で追加された達成基準のうち、電子図書館のアクセシビリティ改善に資すると考えられる要件を、「6. 対応方法」に新規のアクセシビリティ要件として又は既存のアクセシビリティ要件の参考規格への追加として記載した。

「読書バリアフリー」に関する文芸三団体・共同声明

読書バリアフリーに関する三団体共同声明

読みたい本を読めない人が多いです。

日本ではじめて日本語の点字が正式に採用されたのは、1890年。録音図書は製作と貸し出しがはじまったのは、1959年。電子書籍が本格的に普及しはじめたのは、2010年代。障害者にとって「読書」をする手段は、100年以上前からあったにもかかわらず、未だに読みたい本を読めずに暮らす人が多くいます。

私たちは表現に乏しさを覚える一方で、「読書バリアフリー法」(視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律、2019年6月施行)、改正「障害者差別解消法」(障害者理由と差別の解消の推進に関する法律、2024年4月施行)、「障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法」(障害者による情報の取扱い及び利用並びに意思疎通に係る施策の推進に関する法律、2022年5月施行)に賛同の意を表します。

私たちは出版界、図書館界とも歩調を合わせ読書環境整備施策の推進に協力を惜みません。

2024年4月9日

- 公益社団法人日本文藝家協会 理事長 林真理子
- 一般社団法人日本地理作家協会 代表理事 貴井徳郎
- 一般社団法人日本ベングラブ 会長 桐野夏生

誰でも親しめる読書推進

文芸三団体共同声明



文芸三団体共同声明

「読書バリアフリー」歩調を合わせ

「読書バリアフリー」歩調を合わせ

障害者読書環境整備推進へ声明
出版関連5団体
視力や肢体の不自由があっても読書に広く親しめる環境を作る「読書バリアフリー」推進について、日本書籍出版協会や日本雑誌協会など出版関連5団体は27日、「あらゆる読者の利便性を高め、出版文化をさらに発展させていく」とする共同声明を出した。

声明に参加したのは商協団法入のデジタル出版者連盟、日本出版者協議会、版元ドットコム。「二人でも多くの読者に本を届けたい」という思いは、出版者としての活動の根本にある。読書があたりまえのものとして、人生とともにあつてほしい」とし、今後、音声で読み上げられる電子書籍などの普及を進めるとい

読書バリアフリーへの対応：充実した読書アクセシビリティ

視覚障害者が独力で操作可能な**テキスト版サイト**（視覚障害者利用支援サイト）をLibrariE & TRC-DL導入の図書館から希望があれば、費用追加なく提供しています。2025年7月1日現在、導入館421自治体中、実に409自治体、約97%が同サイトを開設しています

スクリーンリーダー※と組み合わせて利用します。

※高知システム開発社製「PC Talker」で動作検証をしています

<テキスト版サイト>

検索条件: 検索結果: 1件 表示: 10件 / ページ: 1 / 1

検索条件: 検索結果: 1件 表示: 10件 / ページ: 1 / 1

検索条件: 検索結果: 1件 表示: 10件 / ページ: 1 / 1

検索条件: 検索結果: 1件 表示: 10件 / ページ: 1 / 1

検索条件: 検索結果: 1件 表示: 10件 / ページ: 1 / 1

検索条件: 検索結果: 1件 表示: 10件 / ページ: 1 / 1

検索条件: 検索結果: 1件 表示: 10件 / ページ: 1 / 1

検索条件: 検索結果: 1件 表示: 10件 / ページ: 1 / 1

検索条件: 検索結果: 1件 表示: 10件 / ページ: 1 / 1

検索条件: 検索結果: 1件 表示: 10件 / ページ: 1 / 1

<テキスト版サイト用ビュー>

タイトル: 読書バリアフリー 検索: 検索

検索条件: 検索結果: 1件 表示: 10件 / ページ: 1 / 1

検索条件: 検索結果: 1件 表示: 10件 / ページ: 1 / 1

検索条件: 検索結果: 1件 表示: 10件 / ページ: 1 / 1

検索条件: 検索結果: 1件 表示: 10件 / ページ: 1 / 1

検索条件: 検索結果: 1件 表示: 10件 / ページ: 1 / 1

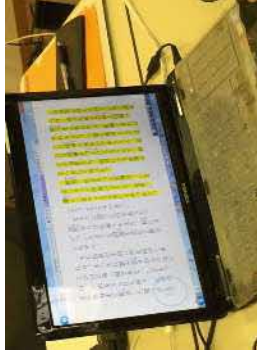
検索条件: 検索結果: 1件 表示: 10件 / ページ: 1 / 1

検索条件: 検索結果: 1件 表示: 10件 / ページ: 1 / 1

検索条件: 検索結果: 1件 表示: 10件 / ページ: 1 / 1

検索条件: 検索結果: 1件 表示: 10件 / ページ: 1 / 1

検索条件: 検索結果: 1件 表示: 10件 / ページ: 1 / 1

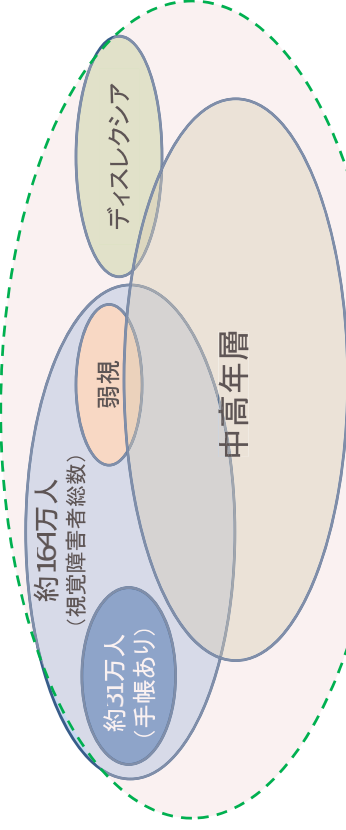


兵庫県/三田市立図書館内での実証実験・風景（2014年度～）

＊約1年半、視覚障がい者、社会福祉団体の関係者を中心に実証/ヒアリング→「テキスト版サイト」の開発/リリース

読書アクセシビリティへの対応（想定している1-ザ-層）

日本の視覚障害者で、障害者手帳を持っている方は約31万人
同等の障害レベルを持っている視覚障害者は、約164万人



TRC電子図書館のアクセシビリティ機能は、約164万人の中で障害者手帳を持っていない方や弱視の方にも、またディスレクシアの方や、更に中高年の皆さんにも使っていただきたいと思っています

学校市場での電子図書館サービスの運用(1)

学校市場での電子書籍サービスの運用スキーム

①公共図書館のプラットフォーム<PF>での運用

※学校関係者(生徒/教職員)への学校専用IDを発行/付与→「DL学校連携」
(全国168自治体/25年3月末現在)

②公共図書館のプラットフォーム<PF>での運用

※学校関係者(生徒/教職員)へ一般利用IDを一括的に発行/付与(熊本市他)

③学校専用プラットフォーム/自治体一括(足利市、日進市、田原市他)

④1自治体に公共専用&学校専用の2PFで各運用(金沢市、習志野市他)

⑤DL/PF→公共図書館、サービス対象者:児童/こどもを中心/主軸
(西東京市、伊勢市、伊丹市、北九州市、宮崎市)

⑥DL/PF→公共図書館、サービス対象者:小・中学生限定(檀原市、北広島市)

⑦学校専用PF/広域契約(県主導で県立高、市町村立小中学校での広域運用)

学校市場での電子図書館サービスの運用(3)

1. 効果

- ①自治体内全体の約80%以上が学校関係者(児童中心)の利用実績
- ②朝読、休憩時間のほか、家読での一定の利用→読書の習慣化
- ③タブレットというインターフェースが児童に親和性が高く、受け入れやすい
- ④小学校低学年にはタブレット操作性習得との相乗効果
- ⑤「不登校生徒」及び「特別支援学校生徒」へのニーズ

2. 課題

- ①利用者ID/PWの管理、自治体内での役割分担の明確化
- ②中学生への利用促進→不読率の高まる高校生へのアプローチ
- ③同じ自治体内学校においても、学校間での利用格差
(GIGA端末の自宅持帰り可否他)→未利用、低利用学校へのアプローチ強化支援
- ④児童/生徒のみならず、保護者への浸透も並行して行う必要性

※学校専用ID期限切れ(中学校3年生卒業時)→一般利用ID登録への「移行支援」

学校市場での電子図書館サービスの運用(2)

P.5①公共図書館プラットフォーム型の全国実情

自治体名	自治体名
北海道	旭川市
青森県	青森市
岩手県	盛岡市
宮城県	仙台市
秋田県	秋田市
山形県	山形市
福島県	福島市
茨城県	水戸市
栃木県	宇都宮市
群馬県	高崎市
埼玉県	さいたま市
千葉県	千葉市
東京都	東京都
神奈川県	横浜市
新潟県	新潟市
富山県	富山市
石川県	金沢市
福井県	福井市
山梨県	山梨市
長野県	長野市
岐阜県	岐阜市
静岡県	静岡市
愛知県	名古屋市
三重県	津市

おいらせ町(青森県) 学校現場における活用事例



電子図書館で電子書籍を読み読書カードに記入する



広報おいらせ2022年1月号p.3

- 本の紹介文を書く
- 国語の授業で利用
- 朝読で利用
- テスト問題を早く解き終わった児童にはタブレットによる読書を推奨している

比企広域電子図書館

比企eライブラリ

トップ

お知らせ

新着資料

貸出ランキング

特集

お問い合わせ

マイページ

検索

ブックマーク

ブックマーク追加

検索結果

1件中1件表示

ログイン

利用書ID

パスワード

ログインする

ジャンルで絞り込む

すべて>

▶ 学校選定図書

▶ 学校選定図書総覧(1)

比企広域電子図書館比企eライブラリ教職員対象研修

比企広域電子図書館児童館啓蒙

コンテンツタイプ: 動画コンテンツ

表示件数: 21

Windows

iOS

読む

比企広域電子図書館比企eライブラリを比企広域電子図書館参加市町の各小中学校で活用していただくために教職員の方を対象として作成した資料です。

【内容紹介】

比企広域電子図書館比企eライブラリを比企広域電子図書館参加市町の各小中学校で活用していただくために教職員の方を対象として作成した資料です。

出版年月：2024.5

羽島市(岐阜県) 学校現場の意見を反映



小学校の国語の時間を使って、電子図書館を活用した「出前講座」を行う羽島市図書館職員

国語の教科書に掲載された
本が電子書籍化されていれ
ば購入し、小・中学校各学
年ごとに電子図書館に登録し
(先生からは読み放題バックに掲載し
てほしい、との要望あり)

[illegible]

①電子書籍コンテンツ販促の多様化

- *「TRC-DLマガジン/ジュニア(仮称)」の新規販売<2026年4月~予定>
→現「TRC-DLマガジン」(現在284誌/点)のタイトルより小中学生向けのタイトル:約50誌をパッケージングしての新規販売
- *「見守りタブレット」「防災タブレット」(高齢者向けの生活支援・セーフティーネット・孤立化対策等)の普及に即した「一般利用者/高齢者向け・読み放題パック」の商品/開発
- *「洋書コンテンツ」の新規取扱:EBSCO「eBooks」 <本年9月~予定>
- *「独自資料」の登録/搭載支援(目録化、TTS/音声化<文字情報のみならず図版等> 他)

②民間市場への導入促進

- *各社の「福利厚生」及び従業員の「自己啓発」としてのニーズが潜在
- *各社の「顧客サービス」の向上(総合病院内、飛行機内、特急車内、マンション、保育園 etc)

③DL利用動画の制作→管理者画面への搭載

- *「一般利用者向け」と「管理者向け」の2種を制作(本年12月末までには完成→公開予定)
- *「一般利用者向け」は、成人用と児童用の2パターン制作

④DL業務のアウトソーシング・委託/受託化のニーズ

- *イベント系(市民向けDL体験会他)、利用統計/検証/分析系(効果検証/アンケート)
- *日常業務系(DLサイトの定期メンテ、ID登録/管理、利用統計、選書支援他)

⑤図書館総合展フォーラム

- *総合展フォーラム開催日時:10月23日(木)10:30~12:00 <場所:パシフィコ横浜>
- *テーマ:電子図書館サービス「新たな読書スタイルを目指して」
-出版社&製作者&図書館現場からの視点-

ご清聴ありがとうございました

相乗効果



紙と電子は車の両輪

紙の本 VS 電子書籍



紙の本 AND 電子書籍

紙の本:メリット

- 紙のほうが様々な内容等の書籍を徹密に読み解きやすい
- 紙のほうが集中できる
- フラウンジングできる
- 関連する資料をその場で確認できる
- さっと読みが容易
- 紙独自の重量感がいい・好き
- 図書館内の環境/雰囲気がい・好き
- 読書関連グッズ(しおり、カバー他)を集めるのが好き

紙の本:デメリット

- ▲図書館他に行かないと貸出/返却できない(宅配サービス除く)
- ▲持ち歩き、置き場所が不便
- ▲経年劣化



電子書籍:メリット

- いつでもどこでも気軽に読める
- いつでもどこでも貸出・返却手続きができる
- 文字サイズを自分に合ったサイズに変更可能
- 特に様々な障がい者にとって、読書/リアフリーの観点から優れている
- 文字サイズを自分に合ったサイズに変更可能
- 省力化、省スペース化に通じている
- オリジナル資料等を容易に発信できる

電子書籍:デメリット

- ▲読書感を味わえない
- ▲本を読むという情報を手に入れる感じになりやすい
- ▲長時間読むと目が疲れる
- ▲紙の本より購読可能な点数が少ない



第30回鳥取県図書館大会

分科会

電子書籍の未来 ～読書バリアフリー、教育現場編～

電子図書館の学校連携とアクセシビリティ

2025年8月

株式会社メディアドゥ
電子図書館推進課

子どもの学習・読書推進を支援する学校連携

学校教育法等が改正され、2024年度から小中学校でデジタル教科書の導入が始まりました。また小中学校だけでなく高等教育の現場でもデジタル教科書の導入は進行しています。

このことは教育現場においては学校の授業のあり方に対して大きな影響を与えとともに、児童・生徒の学びの場の変革をもたらすと想定されます。

教科書だけでなく、参考書や副読本、朝読書ひいては通常の読書にもデジタルを活用することが可能です。公共図書館で導入する電子書籍（電子図書館）を連携という形で有効に利用することで、この状況に対応可能であると考えます。

下記に示したように文部科学省も学校端末の有効利用を推奨しています。

GIGAスクール端末を積極的に利用するツールとしての電子図書館導入を提案します。

事務連絡

令和4年8月2日より抜粋

「1人1台端末環境下における学校図書館の積極的な活用及び公立図書館の電子書籍貸出サービスとの連携について」

文部科学省では、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実など、教育の質を向上させることをねらいとする「GIGA スクール構想」を推進しているところであり、児童生徒の1人1台端末等の ICT 環境を活用した新しい学びが全国各地で開始されています。

（中略）
また、一部の自治体においては、設置する学校の児童生徒に対し、公立図書館の電子書籍貸出サービスの ID を一括で発行している事例が見られます。

このような取組は、各学校における、学習活動のほか、長期休業期間中の児童生徒や、感染症や災害の発生等の非常時にやむを得ず学校に登校できない児童生徒の自宅等での学習においても効果的であると考えられています。については、学校設置者と図書館担当部局が連携し、こうした取組の実施を積極的に検討いただくようお願いいたします。

（後略）

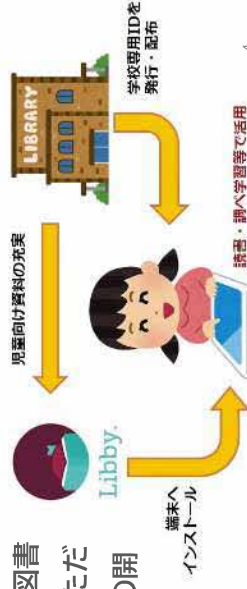
子どもの学習・読書推進を支援する学校連携

電子図書館による学校連携の実現

GIGAスクール端末活用のための学校連携

- ①市内の公立小中学校で配布されている、GIGAスクールの学習端末で、いつでも電子図書館で電子書籍が読める環境の整備
- ②市内の公立小学校・中学校の児童生徒に一括で学校専用のIDを作成・配布
- ③タブレット（スマートフォン）専用のアプリ【Libby】をすべての端末にインストールし、アクセスの容易性を確保。（可能であれば実施。教育委員会での調整が必要となります）

教員への操作説明については、図書館・教育委員会と協議させていただき、校長会、教員の研修会などの開催に合わせて説明会を実施。



電子図書館による学校連携の実現

学校連携用アカウントの発行について

学校連携で使用するアカウントには、以下の要素(項目)は必須です。

- ① 学校を識別する要素
- ② 入学年度を識別する要素
- ③ 個人を識別する要素

※広域連携を行う場合は、自治体を識別する要素も追加します。

- ①②の要素は、利用統計を分析を行う際に使用可能です。

- ①は利用された学校を特定できます。
- ②はその時点での、学年を特定できます。

これらを分析することで、学校別利用統計を抽出することが可能になります。

また②は卒業生の一括での利用停止処理を行う際にも必要となります。

この方式は、児童・生徒数の多い自治体に適しています。
アカウントの発行・削除については、新入生分と卒業生分の発行・削除のみで完了します。

アカウントの発行・削除については、新入生分と卒業生分の発行・削除のみで完了します。

電子図書館による学校連携の実現

電子図書館コンテンツの授業利用について

公共図書館で導入された電子図書館の電子書籍は授業で利用できます。その内容は以下の通りです。

- ★ **国内書** 教員が授業利用目的で利用する場合、「授業利用目的公衆配信保証金制度」により保証金を負担することで授業での利用が可能です。利用の詳細については教育委員会にご確認ください。
- ※学校種別の年間包括料金を自治体が納入済みである場合は、別途の保証金の支払いは生じません。

※学校種別の年間包括料金を自治体が納入済みである場合は、別途の保証金の支払いは生じません。

- ★**外国書** OverDriveの洋書コンテンツは著作権を気にせず、学校現場での授業利用が可能です。出版社との間に著作権の許諾が済んでいますので、電子黒板に投影しながらの授業や、児童・生徒のそれぞれのPC・タブレットに貸出での授業が可能です。

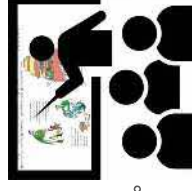
電子図書館による学校連携の実現

- ◆同時アクセス可能な英語資料(380万点)を豊富に準備しています
- ◆多読学習での利用は生徒の英語を“読む力”を育てます
- ◆外国語書籍は特別の言語なく授業利用が可能です

授業での副読本として利用可能です
※ALTへの教材提供にも対応

学校授業での展開例

アクセス制限モデルで利用の場合



大きなスクリーンもしくは大型ディスプレイに映して、児童・生徒全員で見る・読む・発声するなどで利用することが可能です。



同時アクセス無制限モデルの電子図書の場合は、児童・生徒及び先生が同時に同じ電子書籍を借り出し、授業内で副読本として利用することが可能です。

学校連携を計画する段階にて図書館(生涯学習課)と学校教育課との間で事前協議を行います。

事前準備として、協議及び検討が必要な事項

- 図書館側での学校向け電子書籍コンテンツの導入
コンテンツの内容については学校教育課の意向と協議の中で調整
- 連携開始時期についても協議の上、調整・決定
- アカウন্ツの管理担当を図書館側で行うか、学校教育課側で行うかの調整
- 同時にアカウন্ツ管理方法を検討

学校教育課

GIGA端末へのアプリ導入の可否確認

Yes

No

ポータルサイト

専用ページへのリンクを設定

図書館

電子書館内に学校向けページを作成

児童・生徒用アカウント発行(全校全員分)

児童・生徒へのアカウント配布

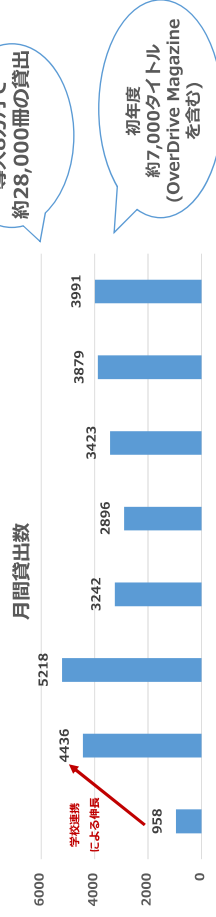
教員向け説明会の実施(オンライン含む)

児童・生徒向け説明会 配布案内文でも可(図書館もしくは教員にて)

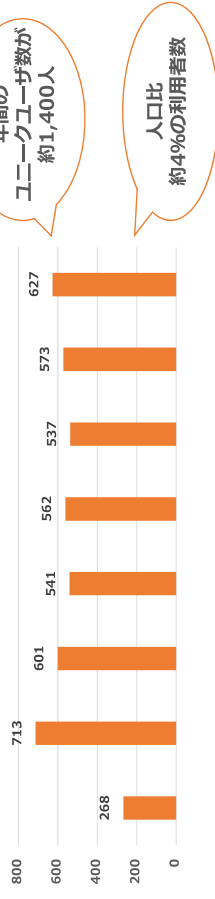
利用開始

学校連携 朝読書利用の効果例

A町(人口約3.5万人、児童生徒数約3,100人)の実績です。



ユニークユーザー数



子どもの読書活動推進計画 等の促進に電子図書館が活用できます

学校連携用コンテンツの特長

◆学校での読書活動との連携・支援として同時アクセスモデルの提供が可能です。

朝読書など

読書推進活動に活用

待ち時間なしですぐに読みたい作品にアクセス可能!

団体貸出に加え書籍の選択の幅が広がります。

次ページに追加の同時アクセスパッケージを記載します。このほか、積極的にパッケージの追加を計画中です。



児童書をメインとした同時アクセスパッケージです。図書館の学校連携支援を促進させ、一人1台端末の活用、及び子どもたちの読書機会を創出するべく、出版社にて選りすぐられた47のパッケージを販売しております。朝読書や調べ学習(総合学習)にご活用可能です。

パッケージ提供社	パッケージ数
講談社	8(440冊)
Gakken	12(228冊)
フレーベル館	7(289冊)
理論社	2(80冊)
世界文化社	2(72冊)
筑摩書房	1(50冊)
国土社	2(77冊)
メイツユニバーサルコンテンツ	1(20冊)
辰巳出版	2(45冊)
日東書院本社	2(55冊)
PHP研究所	6(159冊)
文響社	2(29冊)
合計	47(1,544冊)

学校向けページの例



利用者に合わせた使いやすいアクセシビリティ環境の提供

さまざまな障害のある方が、利用しやすい形式で

本の内容にアクセスできるようにするために

電子図書館サービスの普及に加え、

電子書籍の音声読み上げ対応が進んでおります

視覚障害者の読書環境の整備の推進に関する法律（令和元年法律第四十九号）
施行日：令和元年六月二十八日

第三章 基本的施策

（視覚障害者等による図書館の利用に係る体制の整備等）

第九十条 国及び地方公共団体は、公立図書館、大学及び高等専門学校等の附属図書館並びに学校図書館（中略）について視覚障害者等が利用しやすい書籍等の充実、視覚障害者等が利用しやすい書籍等の円滑な利用のための支援の充実その他の視覚障害者等によるこれらの図書館の利用に係る体制の整備が行われるよう、必要な施策を講ずるものとする。（後略）

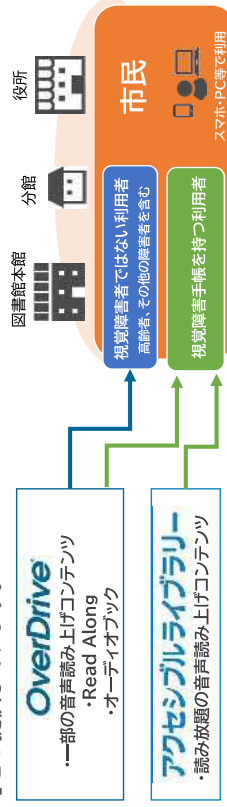
（インターネットを利用したサービスの提供体制の強化）

第十一条 国及び地方公共団体は、視覚障害者等がインターネットを利用して全国各地に存する視覚障害者等が利用しやすい書籍等を十分かつ円滑に利用することができるようにするため、次に掲げる施策その他の必要な施策を講ずるものとする。
一点字図書館等から著作権法第三十七条第二項又は第三項本文の規定により製作される視覚障害者等が利用しやすい電子書籍等であってインターネットにより送信することができるもの及び当該点字図書館等の有する視覚障害者等が利用しやすい書籍等に関する情報の提供を受け、これらをインターネットにより視覚障害者等に提供する全国的なネットワークの運営に対する支援

利用者に合わせた使いやすい アクセシビリティ環境の提供

利用者に合わせたアクセシビリティ対応

メディアドックは、利用者に合わせたアクセシビリティな電子書籍を提供できるよう、OverDrive電子図書館サービスと視覚障害者専用電子図書館サービス「アクセシブルライブラリー」をご提供しています。



特に視覚障害者の図書館利用に関しては、点字翻訳や音声朗読によるものがほとんどであり、絶対量が少なくジャンルが偏っていたり、全国での共有が不十分です。アクセシブルライブラリーの導入は、視覚障害者がより多くの作品に触れられるようにすることを目的としております。

◆OverDriveは3種類の音声コンテンツを提供しており、視覚障害者以外にも高齢者やその他の障害者も音声で作品を利用できます

◆アクセシブルライブラリーは視覚障害者の利用に限定している一方で、視覚障害者が使いやすいUIと独自のコンテンツ許諾でより多くの読み上げ作品を提供していきます

OverDriveの音声対応コンテンツ

- ・ OverDriveで提供するコンテンツの中の音声対応資料について

New

機械音声読み上げ（日本語リフロー作品）

①本文を機械音声が読み上げてくれるため、文字を読むのが辛い方の読書をサポート

②読み上げの速さを3段階で調節可能

③読み上げに合わせてテキストがハイライトされる

オーディオブック

①ネイティブな発音のナレーションで通学やスポーツ中でも読書ができる

②ナレーションの速さや音量の調節が可能

③380,000作品以上の取り扱い

Read-Along

①ネイティブな発音のナレーションにあわせてテキストがハイライトされる

②一時停止や、戻って聴き直すことが可能

オーディオブック、リードアロングともにネイティブによる正しい発音やイントネーションを学べるため、読書を楽しんでいただく他に、英語教育(特に学校現場)にも活用していただけるコンテンツとなっております。

17

- 52 -

アクセシブルライブラリーについて

アクセシブルライブラリーが目指した点

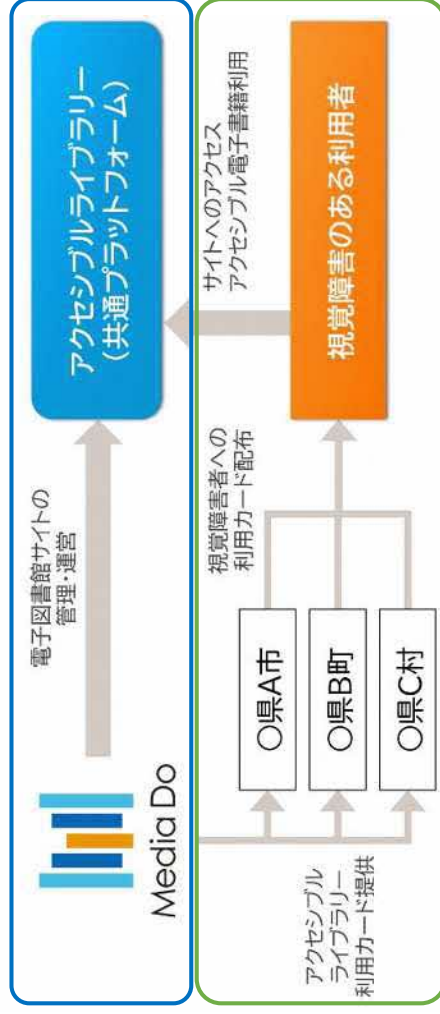
- ◆電子図書館サイトへワンアクションでアクセスできる操作性
実際に視覚障害をお持ちの方にモニタリングを行い、視覚障害の方が本当に利用できるサイトを構築した
- ◆貸出・返却などの複雑な操作を覚える必要がなく、読み放題のため予約などの待ち時間もない

『誰一人取り残されない、人に優しいデジタル化』にぴったり合ったサービスとしてデジタル庁 令和4年度「デジタルの日」Good Digital Award **グランプリ受賞**

アクセシブルライブラリーの特長①

アクセシブルライブラリーは、視覚障害者が**自力で利用できるシステム**に加え、自治体/図書館の**運用負担が少ない**サービス構成です。

1. サービスサイト・リーダーについて



2. 運用管理について

アクセシブルライブラリー

本サービスは、**視覚障害者を対象とし**
公共図書館を通じて**電子書籍を音声自動読み上げで提供する**
サブスクリプションサービスです



※将来的には視覚障害者以外の方々にもサービス提供を広げていきたいと考えています。

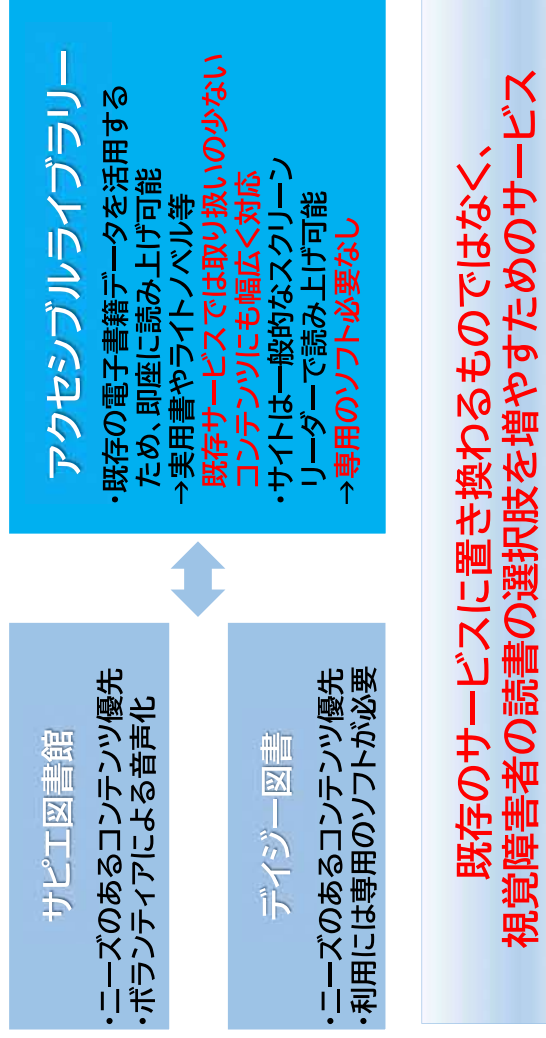
デジタル庁「good digital award 2022」グランプリ受賞！
日本電子出版協会(JEPA)「第16回 電子出版アワード」大賞受賞！

19

20

アクセシブルライブラリーの特長④

3. 既存サービスとの関係性



○第3分科会

対談：大人も本を読んでいないといわれるけれど…。

内容：大人にとって読書とは？ 鳥取市内で長年にわたり本を手渡し続けてきた書店主と、本と人をつなぎ新しい本との出会いを届ける「読書室」主宰の二人に、大人になってからの読書の意味についてお話をいただく。

<対談者>

奈良 敏行 氏(定有堂書店 店主)

三砂 慶明 氏(読書室 主宰)

「大人も本を読んでいないといわれるけれど……」

1. 《真理がわれらを自由にする。》（国立国会図書館）

2. 自由はわれらを真理（なにかよいこと）へと開いていく

《本は「驚き」によって世界（存在）を開く、それは環境緊縛性から世界開示性への開かれでもあり、ときにそれが「自由」の体験であり、また「救い」でもある。》（「読書室」巻頭言）

3. 二つの自由

(1) free to ～への自由（何かを実現する自由。リテラシーの確立。）

(2) Free from ～からの自由（ルールメーカーから選択肢を与えられる。何かを避ける自由。リテラシーが奪われている。）

4. 「読書が大事」ということ

読書が大事ということは、人を説得するようなテーマではない。

「読書が大事」と思う人がいると告げる、それだけで事は終わる。

5. 読書の相剋

「本を読む人」に出会って「本のたのしさ」が広がる。しかしそのためにはすでに本を読んでいなければならない。読書にはそのような相剋がある。

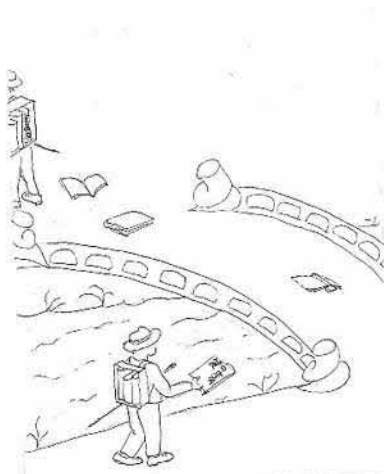
6. 本屋の生成変化

- ・都市部の書店（ツリー状）→町の本屋（リゾーム）→個人書店（ひとり本屋・もう一つの生き方）
- ・本屋は「縮減」へ向かう
- ・定有堂の縮減 町の本屋→「笈の定有」見立ての本屋（一箱背に負えるほど＝「笈」）
- ・「本屋トーク」＝本棚を背景にして「語る」＝「笈」の必要

7. 「笈の定有」の中の棚

- (1) 三砂慶明／著 (2022)『千年の読書 人生を変える本との出会い』誠文堂新光社
本に救われるという自分の体験を基盤に据えた伝道の書。
- (2) 三砂慶明／編 (2022)『本屋という仕事』世界思想社
本は本屋の人によって手渡される。ではその本屋の人たちはどのように仕事をしているのか。
- (3) 濱崎洋三／著 (1998)『伝えたいこと』 濱崎洋三著作集刊行会 ※定有堂書店発行
定有堂教室「読む会」の熾(おき)火。「大きな声を信じるな。本を読め。自分の頭で考えろ。」
焚き火の読書会と呼ばれる。1988 年より続く。
- (4) 村上春樹／著 (2000)「アイロンのある風景」(『神の子どもたちはみな踊る』) 新潮社
大きな声から逃れ隠れて暮らす。焚き火をするときだけ生きている事を実感する。
- (5) 高村友也／著 (2018)『スモールハウス 3坪で手に入れるシンプルで自由な生き方』
筑摩書房(ちくま文庫)
(5)と(6)は奈良と三砂慶明さんの出会いを作った本。3坪の移動する小屋に暮らす人たちを紹介する。人の身の丈は3坪で十分という思想の始まり。つながりを最小にする。個人書店の出現を予言。
- (6) 西村佳哲／著 (2009)『自分の仕事をつくる』筑摩書房(ちくま文庫)
本当のしあわせ、本当の仕事を問い続ける。
- (7) ジョン・クラカワー／著, 佐宗鈴夫／訳 (2007)『荒野へ』集英社(集英社文庫)
定有堂は25歳から28歳くらいの人に向けてメッセージを発し続けてきた。アイデンティティ・クライシスの季節と呼んだ。「初発衝動」が一気に発動する時だ。28歳くらいには成功と挫折が明らかになる。でも本当の人生はそこからはじまる。
- (8) 奈良敏行／著, 三砂慶明／編 (2024)『町の本屋という物語 定有堂書店の43年』作品社
- (9) 奈良敏行／著, 三砂慶明／編 (2025)『本屋のパンセ 定有堂書店で考えたこと』作品社
奈良と三砂慶明さんとの関係は、アール・ブリュットと学芸員の関係。既存の表現に属しない人間を発掘し、書かせ、本にまとめた。
- (10) 向井和美 (2022)『読書会という幸福』岩波書店(岩波新書)
じつに濃厚な読書会。命を賭した読書会。
- (11) ジェレミー・マーサー／著, 市川 恵里／訳 『シェイクスピア&カンパニー書店の優しき日々』河出書房(河出文庫)
バリの伝説の本屋。店の後ろ半分は個人図書館。しかもそこに住み込むアーティストもいる。
- (12) ヘミングウェイ／〔著〕, 高見浩／訳(2009)『移動祝祭日』新潮社(新潮文庫)
ヘミングウェイも(11)の証言者の一人。毎日が祝祭日だった。
- (13) 寺山修司／〔著〕『書を捨てよ、町へ出よう』角川書店(角川文庫)
「何一つ自分の青年時代に賭けるべきものを持たなかった者たち」を告発する書物。
- (14) 花田菜々子／著 (2020)『出会い系サイトで70人と実際に会ってその人に会いそうな本をすすめてくれた1年間のこと』河出書房(河出文庫)
自分の実存を本と表裏一体にする人間を本屋的人間という。本をすすめたくて、すすめたくて、路上へと飛び出した人。
- (15) チョン ジヘ／著, 原田里美／訳 (2024)『私的な書店 たったひとりのための本屋』葉々社
本の事を語り続けたい。本屋の外部へ出て見つけたのは「本の相談」という仕事。

- (16) 南陀楼綾繁／著 (2009)『一箱古本市の歩きかた』光文社 (光文社新書)
- (17) 南陀楼綾繁／著 (2024)『「本」とともに地域で生きる』大正大学出版会
時代は「縮減」に向かう。「一箱古本市」という熾火を発見した人の本。
- (18) 本の雑誌編集部／編 (2023)『本屋、ひらく』本の雑誌社
3坪程度の本屋を数多く紹介した本。「スモールハウス」と「自分の仕事をつくる」の世界がここにある。
- (19) 政木哲也／著 (2023)『本のある空間採集』学芸出版社
個人書店を中心とした立体透視図。店主がどこにどのように座るかも描かれる。店主一望の品揃えなのだ。
- (20) ミハイ・チクセントミハイ／著, 大森弘／監訳 (2010)『フロー体験入門 楽しみと創造の心理学』世界思想社
三砂慶明さんの問いの果てには、「フロー体験」があるのではないかと考える。
- (21) 橋本治／著 (2009)『大不況には本を読む』中央公論新社 (中公新書ラクレ)
本の大切さは定量的には語れない。定性的に語るのだと主張。
- (22) マーガレット・アトウッド／著, 斎藤英治／訳 (2001)『侍女の物語』早川書房 (ハヤカワ epi 文庫)
二つの自由を語った予言の書。権威主義的国家的恐怖。
- (23) 児島青 (2025)『本なら売るほど』KADOKAWA (ハルタコミックス) ※現在 2 巻まで
コミック。アイデンティティ・クライシスはひょっとしたら個人書店であることで救われるのではないかと思わせる本。
- (24) レイモンド・マンガー／著, 中山容／訳 (2025)『就職しないで生きるには 新版』晶文社
「初発衝動」のエンジンとなり続けた本。久しく品切だったがこの度、辻山良雄さんの解説をつけて再刊。解説の最後に、「身の丈に完結している世界を、外部が解釈すると別のものになりやすい」という言葉が引用されている。
- (25) 山内志朗／著 (2018)『目的なき人生を生きる』KADOKAWA (角川新書)
後成 (エピジェネティクス) を教えてくれる。欲望は原初形態において対象を持たない。目的は最後に現れる。秩序より逸脱を重視する人々に多くの言葉を与えてくれる。
- (26) 綾屋紗月／著, 熊谷晋一郎／著 (2010)『つながりの作法 同じでもなく違うでもなく』日本放送出版協会 (生活人新書)
「身の丈」と「外部」、それを当事者研究へと導いてくれる。



「定有堂教室」
(google サイト)



「定有堂書店」
ホームページ



新しい「鳥取の本」のご紹介です。

定有堂書店が刊行した『伝えたいこと』に加え、「書店員の聖地」定有堂書店の奈良敏行さんの軌跡と思索が2冊の本になりました。本と地域、本と人とのつながりを、心を尽くして温めつづけた本屋の聖書です。本を読者に届けたい、本屋をはじめたい、本について考えたい、読書会について知りたい、自分自身の人生を生きたい、これから先どう生きればいいのか迷っている人に、本書をお薦めします。 三砂慶明（読書室）2025年8月18日

『町の本屋という物語 定有堂書店の43年』奈良敏行著（作品社）

【書評続出・好評3刷】

角田光代さん（作家）

「自分の人生を見つけて生きるための哲学書」

大井実さん（ブックスキューブリック）

「ローカルな地方都市で本を買い、本好きの人々と交流しながら生活していく喜びが味わい深い言葉の数々で表現されている。すべての書店員にとってのバイブルの様な本」

日野剛広さん（ときわ書房志津ステーションビル店）

「苦悩と苦労を重ねつつも一つ一つ正面から取り組み、思考し、それが確かな道標となって、お客様と本屋の姿を照らしていくような、そんな瞬間を読者は目撃するだろう。」

南陀楼綾繁さん（編集者・ライター・一箱古本市主催）

「地域の人とのつながりによって、売り場面積というスペースの限界を超えればいいという言葉には、「本屋」の限りない可能性を感じる。」

岩田直樹さん（定有堂「読む会」講師）

「定有堂とは一体どのような存在なのか。「公共性の揺籃」とか「サードプレイス」とかいった大袈裟な表現は相応しくない。奈良さんは「本屋は焚き火である」と語る。火にあたりに来る人が一本ずつ薪を持ち寄れば、火は消えることなく燃え続ける。」

2025-03-15 読売新聞 鳥取版 評者：野間勤（鳥取県立図書館）[読書の達人・司書のコレ絶対読んで！]

<https://www.yomiuri.co.jp/local/kansai/feature/C0069256/20250318-0YTAT50007/>

2025-03-09 読売新聞 朝刊 評者：宇田智子（市場の古本屋ウララ）

2024-07-26 週刊読書人 2024年7月22日号 評者：南陀楼綾繁（ライター・編集者）[2024年上半期の収穫から]

2024-05-25 図書新聞 評者：岩田直樹（公立鳥取環境大学特任教授・「読む会」講師）[本を介して「小さな声」が響きあう奇跡]

2024-05-05 下野新聞 評者：笈入建志（往来堂書店店主）

2024-05-01 月刊ブレーン 2024年6月号 評者：エディターズブックセレクト

2024-04-29 ダ・ヴィンチ Web 評者：すずきたけし <https://ddnavi.com/article/d1306404/a/>

2024-04-21 北海道新聞 2024年4月21日号 評者：石山府子（古本とビール・アダノンキ店主）

2024-04-20 朝日新聞 朝刊

2024-04-07 読売新聞 朝刊

2024-04-05 小説丸 評者：日野剛広さん（ときわ書房志津ステーションビル店）[週末は書店へ行こう！ 目利き書店員のブックガイド]

<https://shosetsu-maru.com/bookguide/141>

2024-03-17 産経新聞 朝刊 評者：南陀楼綾繁（編集者・ライター）

<https://www.sankei.com/article/20240317-L65MP0I5SZNQXGYHUHVMIIVDP7Q/>

2024-03-16 毎日新聞 朝刊 評者：角田光代（作家） <https://allreviews.jp/review/6792>

2024-03-09 西日本新聞 2024年3月9日号 評者：大井実（ブックスキューブリック）「カリスマ書店員の激オシ本」

『本屋のパンセ 定有堂書店で考えたこと』奈良敏行著（作品社）

【書評・推薦続出】

和合亮一（詩人）

「思想が宿った洗練された言葉が随所に光る。本を閉じて詩集を読み終えた心持ちになった。」

辻山良雄（本屋「Title」店主）

「流行りの言葉を使えば、「利他」ということになるだろうか。自分の意志を超えたところにやってくる何か。人から与えられる偶然を取り込みながら、それを契機に、店の空間や自分の生きかたまでも変えていく。しかし偶然とは、それを待っているものにしかやってこないだろう。奈良さんは「鈍」の力で、単なる偶然を、自らの運命に変えたのではなかったか。」

たられば（編集者）

「しみじみよかった。鳥取の伝説的書店「定有堂書店」の主人である奈良さんがミニコミ誌に綴っていた、本と書店をめぐる旅と思索の冒険譚でした。

「本が大事」という話は、（そういうことを考えたことがない学生に話しても）取り返しがつかない、という一節があって、心に突き刺さっています。説得するような話ではない、と。ではどうするかというと、「本が大事だ」と思っている人がいる」と伝えと。濃縮カルピスみたいな本です。好みに応じてゆっくりたっぷり読むのがおすすめ。」

山形新聞読者欄

「左右の路を選ぶのは自分だが、真っ直ぐへ、と誘うのは「人の縁」だ。あるいは一冊の書物の著者であるかもしれない。」

米田綱路（「図書新聞」編集）

「大切なのは驚きであり、驚きのない読書は実存に触れてこず、おもしろくない。そういう奈良さんは、書棚に本の衝撃の言葉をしるした。驚きとは、本好きの生成と変化の種子である」

八木良憲（共同通信記者）

「『本屋と書店』『本のビオトープ』『遅れて売る』など、一読した段階では頭に「？」が浮かぶフレーズも随所に。だが読み進めるうちに奈良さんの思いが伝わって「！」に変わるから不思議だ。」

星野文月（作家・文筆業）

「奈良さんは本屋という看板を下ろしたあとも、「本屋的人間」であり続けている。それはつまり、本を手渡し、人と出会い、小さな場を耕すように生きる姿勢のことだ。」

2025-06-08 山陽新聞 評者：八木良憲（共同通信記者） <https://www.sanyonews.jp/article/1726846>

2025-06-06 図書新聞 2025年6月14日号 評者：米田綱路（「図書新聞」編集）

2025-05-15 「本屋の時間」第176回 そしてブックカバーが残った 辻山良雄

<https://www.gentosha.jp/article/27350/?srsltid=AfmB0opxnxX6WPOs6sghLgs81ZAmhBNGaPBCHUI3piKBkATPg4jJn21g>

2025-05-09 週刊読書人 2025年5月9日号 評者：星野文月（作家・文筆業）

2025-04-27 産経新聞 朝刊 評者：和合亮一（詩人） <https://www.sankei.com/article/20250427-4VPTVJLHVJNFBWNON66FPZLXE/>

2025-04-26 日刊ゲンダイ 評者：[未知の世界へ！ 書籍にまつわる本特集]

2025-03-16 X 評者：たられば（編集者） <https://x.com/tarareba722/status/1901068649081041356>

定有堂書店唯一の本『伝えたいこと 濱崎洋三著作集』（定有堂書店）

書店員の「聖地」と呼ばれて愛された定有堂書店が、「本の小売り」として作った最初で最後の本。著者は、定有堂書店で35年以上続く人文書の読書会「読む会」の創始者。これからの未来を生きる人たちに向けて編まれた、インディペンデント・マインドに満ちた一冊。読書室から送料無料でお届けします。

お申し込み QR コード 

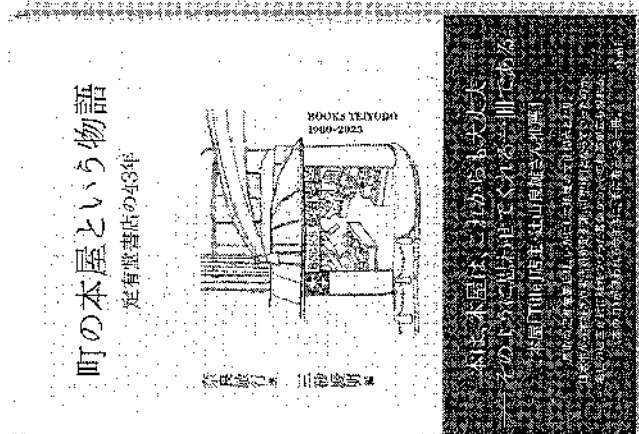
サイト：<https://info.dokushoshitsu.com/items/81736103?from=widget>



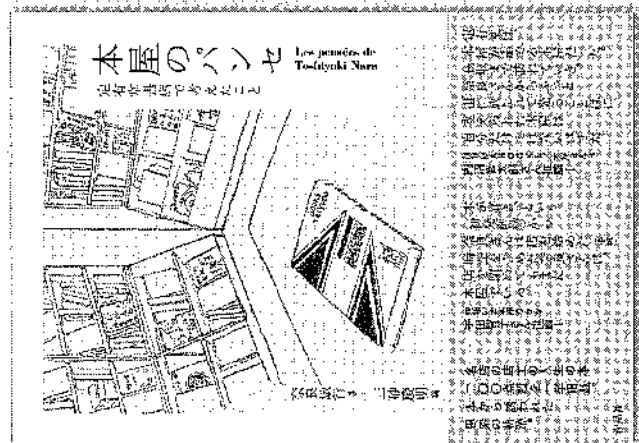
帳合・書店名	()	作品社	部	部数	町の本屋という物語 定有堂書店の43年 奈良敏行 著 三砂慶明 編 ISBN978-60 86793-013-7	定価:本体2200円(税別)	【好評3刷】
帳合・書店名	()	作品社	部	部数	本屋のパンセ 定有堂書店で考えたこと 奈良敏行 著 三砂慶明 編 ISBN978-4-86793-073-1 C0095	定価:本体2200円(税別)	【最新刊】

『世界への信頼と希望、そして愛 アーレント
『活動的生』から考える』(みすず書房)の著
者・林大地氏による書評を、作品社のnoteに
アップしました。ぜひご覧ください!!

<https://note.com/sakuhinsha/n/n896b25aea32a>



奈良敏行 三砂慶明 編



奈良敏行著／三砂慶明編

『町の本屋という物語』『本屋のパンセ』

〈なぜ定有堂が全国の本好きや書店員を魅了してやまないのか、またその魅力あふれる定有堂を続けるうえで奈良さんは何を大事にしてきたのかを教えてください。書店員の「聖地」と呼ばれるほどの存在だった定有堂、そしてその定有堂を生み出した奈良敏行さん。私もまた、その双方に魅了されている。〉——書評より

作品社 〒102-0072 TEL03(3262)9753 FAX03(3262)9757
東京都千代田区飯田橋2-7-4

○第4分科会（NPO本の学校・特別分科会）

ニジノ絵本屋の物語

～本屋さんで、絵本の出版社で、絵本パフォーマー～

内容：絵本を売るだけでなく、絵本を作る、絵本を背負って様々な場所でイベントを開催する。既存概念を楽しさで吹き飛ばす絵本屋店主にその体験談を語ってもらう。

講師：いしい あや 氏（ニジノ絵本屋 代表）

※レジュメ資料はありません。

○第5分科会

図書館応援団大交流会

内容：県内で活動する図書館応援団が集い、その取組の紹介や情報交換を行う。

※応援団活動に関心のある方もご参加いただけます。

参加者：参加を希望する応援団の皆様

※レジュメ資料はありません。

第30回鳥取県図書館大会への
ご参加ありがとうございました。
来年度は、県東部での開催を予定しています。

アンケートへのご協力をよろしくお願いします。



鳥取県図書館協会への新規加入・会員継続のご案内



鳥取県図書館協会事務局（鳥取県立図書館内）

電話：0857-26-8155 FAX：0857-22-2996

電子メール：kyokai@library.pref.tottori.jp